庄川小学校耐震改修事業　２期外構工事

2015.9

株式会社 押田建築設計事務所

外構工事

２Ｇ-０１	特記仕様書１
２Ｇ-０２	特記仕様書２
２Ｇ-０３	構造設計標準仕様書
２Ｇ-０４	鉄筋コンクリート構造配筋詳細図（１）
２Ｇ-０５	鉄骨構造標準図
２Ｇ-０６	現況図・付近見取図
２Ｇ-０７	特別教室棟廻り現況レベル図
２Ｇ-０８	普通教室棟・体育館廻り現況レベル図
２Ｇ-０９	特別教室棟廻り外構平面図
２Ｇ-１０	普通教室棟・体育館廻り外構平面図
２Ｇ-１１	特別教室棟　東・南側廻り造成断面図
２Ｇ-１２	特別教室棟北側　体育館西側造成断面図
２Ｇ-１３	外構詳細図１
２Ｇ-１４	外構詳細図２
２Ｇ-１５	外構詳細図３
２Ｇ-１６	各所断面図１
２Ｇ-１７	各所断面図２
２Ｇ-１８	グラウンド法面排水管設置平面・断面図
２Ｇ-１９	プール階段詳細図
２Ｇ-２０	プール階段基礎詳細図
２Ｇ-２１	特別教室棟廻り拡大外構平面図１
２Ｇ-２２	特別教室棟廻り拡大外構平面図２
２Ｇ-２３	普通教室棟・体育館廻り拡大外構平面図１
２Ｇ-２４	普通教室棟・体育館廻り拡大外構平面図２
Ｐ-０１	外構平面図(消雪設備)図

株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内３丁目４番１６　ＴＥＬ (076)492-1225(代)
ＦＡＸ (076)492-7200

管理建築士　一級建築士　登録第179507号　堀田　富士雄

設計担当者　一級建築士　登録第201967号　松原　崇

工事名称　庄川小学校耐震改修事業　２期外構工事

図面名称　表紙

DRAWN　T．M／K．A　DATE　H27．09　SCALE　A1：　A3：

No 2G－00

Ⅰ．　工事概要

1．工事名称　庄川小学校耐震改修事業　2期外構工事

2．工事場所　砺波市庄川町金屋1748番地

3．地域指定　用途地域：第１種中高層住居専用地域　　（建ぺい率 60 %、容積率 200 %）

防火地域：指定なし　　前面道路：　5.46　m　　斜線制限：1：1.5

4．建築用途　小学校　　消防用途：　　項

5．工事種別　外　構

6．敷地面積　17,385.30 ㎡

7．面積表

全体建築面積	㎡		
全体延床面積	㎡		
生産棟建築面積	㎡	厚生棟建築面積	㎡
生産棟延床面積	㎡	厚生棟延床面積	㎡
		１Ｆ	㎡
		２Ｆ	㎡
		合計	㎡

8．建築規模

構造規模	造　階建　耐火・準耐火（　ー　）・その他
床　高　さ	設計ＧＬ＋
軒　高　さ	設計ＧＬ＋　　平均地盤面＋
最高部高さ	設計ＧＬ＋　　平均地盤面＋
屋　　根	
外　　壁	

9．指定条件

構造関係は構造設計標準仕様書による。

省エネ法に定める建設地の区分（非住宅）　・　　＊Ｆ

省エネ法に定める地域区分（住宅）　　・Ⅲ　　・Ⅳ

10．工事範囲

＊建築主体工事　・電気設備工事　・機械設備工事

・空気調和設備工事　⊙外構工事　・既存建物解体工事

＊その他設計図書に記載されている工事

11．その他

工事完成後　受注者は工事契約書に準ずる期間保証の責に任ずる。

完成後１年目及び２年目に経年検査を行う。検査の結果工事不良及び壊れ等に準ずる理由により生じたと認められる損傷、又は不都合がある場合は監督員の指示によりすみやかに修理する事。これに必要な費用はすべて受注者の負担とする。

Ⅱ．建築工事仕様書

1．仕様書の適用

1）図面及び，特記仕様書に記載されていない事項は下記による。

＊「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成２５年版」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

＊「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成２５年」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

2）標準仕様書に記載されていない事項は、下記に準拠する。

＊「ＪＡＳＳ」（社）日本建築学会建築工事標準仕様書

2．特記仕様書の取扱い

＊項目及び番号に○印をつけたものを適用する。

＊特記事項に○印のない場合は＊印をつけたものを適用する。

＊特記事項に記載の（　）内表示番号は「公共建築工事標準仕様書」の該当項目を示す。

Ⅲ．特記仕様

1．一般共通事項

① 適用基準等

＊建築工事標準詳細図　（国土交通大臣官房官庁営繕部監修平成２２年版）

＊建築工事監理指針　（国土交通大臣官房官庁営繕部監修平成２５年版）

＊工事写真の撮り方 建築編 改訂第３版（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）

・建築物解体工事共通仕様書・同解説　（国土交通大臣官房官庁営繕部監修平成２４年版）

・ＩＳＯ９００１適用　建築工事施工管理要領　（公共建築協会）

2．工事実績情報の登録

＊適用する（「工事カルテ受領書」の写しを提出）　（1．1．4）

③ 発生材の処理

＊再生資源の利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及清掃に関する法律、その他関係法令に従い、適切に処理し、監督員に報告すること。

＊再生資源利用計画書等作成及び提出

＊運搬、処分委託契約書の写しの提出

＊マニフェスト（Ａ票、Ｂ２票、Ｄ票、Ｅ票）の写しの提出

・引き渡しを要するもの：

・再利用を図るもの：グレーチング、植栽

・分別を図るもの：コンクリート、アスファルト、金属

・再資源化を図るもの：コンクリート

④ 建築材料等

＊建築材料の製造品，製品，施工業者等は特記されたもの又は、同等品以上とする。

但し、同等以上とする場合は監督員の承諾を必要とする。

＊本工事に使用する材料はＪＩＳ又はＪＡＳ規格に合格する製品とし、規格制定のないものについてはそれぞれの性能表等を提出し、監督員の承認を得ること。

＊公共建築工事標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とし、見本，材質、施工受領等について必要書類等を提出し、監督員の承諾を得ること。

（1．5．2）

⑤ 技能士

適用工事種別	技能検定の職種
仮設工事	⊙とび
鉄筋工事	⊙鉄筋施工（鉄筋組立て作業）
コンクリート工事	⊙型枠施工　⊙コンクリート圧送施工
鉄骨工事	⊙とび　⊙鉄工
ﾌﾞﾛｯｸ･ALCﾊﾟﾈﾙ工事	・ブロック建築
防水工事	・ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業 ・合成ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水工事作業 ・塩化ﾋﾞﾆﾙ系ｼｰﾄ防水工事作業 ・ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄﾄｰﾁ工法防水工事作業 ・ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業
石工事	・石材施工（石張り施工）
タイル工事	・タイル張り
木工事	・建築大工
屋根及びとい工事	・建築板金（内外装板金作業） ・スレート作業
金属工事	・内外装仕上げ施工（鋼製下地工事作業）
左官工事	・左官
建具工事	・サッシ施工　**・ガラス施工**
カーテンウォール工事	・カーテンウォール施工 ・ガラス施工
塗装工事	・塗装（建築塗装作業）
内装工事	・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業 ・表装（壁装作業）
排水工事	⊙建築配管作業
植栽工事	・造園
解体工事	⊙解体工事施工技士

6．環境への配慮

揮発性有機化合物を放散させる建築材料等

建物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質・性能を要するものとし、次の１）から５）の事項を満たすものとする。

１）合板・木質系フローリング・構造用パネル・集成材・単板積層材・MDF・パーチクルボードその他の木材建材・ユリア樹脂及び仕上建材は、ホルムアルデヒドを拡散させないか、拡散が極めて少ないものとする。

２）保温材・緩衝材・断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。

３）接着剤はフタル酸ジ-ｎ-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシンを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド・アセトアルデヒド・トルエン・キシレン・エチルベンゼンを拡散させないか、拡散がきわめて少ないものとする。

４）塗料はホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。

５）１）・３）及び４）の材料等を使用して作られた家具・什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、拡散がきわめて少ないものとする。

設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は次の通りとする。

＊規制対象外

①ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆規格品

②建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品

③下記表示のあるＪＡＳ規格品

a．非ホルムアルデヒド系接着剤使用

b．接着剤不使用

c．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない建材使用

d．ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用

e．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用

f．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用

・第三種

①ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆規格品

②建築基準法施行令第２０条の７第３項による国土交通大臣認定品

③旧ＪＩＳのＥｏ規格品

④旧ＪＡＳのＦｃｏ規格品

アスベスト含有建材

「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令及び石綿障害予防規則の一部を改正する省令の施行令について」（厚生労働省労働基準局長通達　基発第0811002号）に基づき本工事に使用する材料については、アスベスト含有建材を使用しないこと。

化学物質等安全データシート（ＳＤＳ、ＭＳＤＳ）等により確認を行った場合は、その写しを監督員に提出すること。

7．化学物質の濃度測定

・揮発性有機化合物の室内濃度の測定室

完成引渡し前に、上記測定室の揮発性有機化合物の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、報告書を提出すること。

また、学校・幼稚園等については文部科学省「学校環境衛生の基準」を満たすこと。

測定室　・

計　ヶ所

採取方法　※パッシブ法（拡散）　・アクティブ法（吸引）

・１ヶ所につき２検体採取

測定方法

採取	ホルムアルデヒド ・アセトアルデヒド	その他の揮発性有機化合物
	ジニトロフェニルヒドラジン誘導体固相吸着/溶媒抽出法	固相吸着/溶媒抽出法
分析	高速液体クロマトグラフ（HPLC）	ガスクロマトグラフ法

測定物質

＊ホルムアルデヒド　＊トルエン　＊キシレン

＊パラジクロロベゼン　＊エチルベンゼン

＊スチレン　・クロルピリホス　・フタル酸ジ-n-ブチル

・テトラデカン　・フタル酸ジ-2-エチルヘキシン

＊アセトアルデヒド　・フェノブカルブ　・ダイアジノン

⑧ 工事写真

＊デジタルカメラによる撮影（１３０万～３００万画素）とする。

＊デジタルカメラによる撮影の場合、データをＣＤ-Ｒ（　部）にて提出すること。

＊下記のものを（フイルムによる場合はフイルムとＣＤ-Ｒとともに）提出すること。

区　分	種　別	プリントサイズ	部　数
＊着工前	・モノクローム ＊カラー	＊サービス ・キャビネ	２　部
＊工事中	・モノクローム ＊カラー	＊サービス	２　部
＊完成時	・モノクローム ＊カラー	＊サービス ・キャビネ	２　部

⑨ 提出書類

＊下記の設計図書を提出のこと。

設計図書	着工前	竣工時
＊設計図		原図訂正 （設計電子ﾃﾞｰﾀ訂正）
＊Ａ１版陽画複写 ２ッ折製本	部 （緑表紙文字書込）	部 （黒厚表紙、金文字印字）
＊縮小第２原図 （Ａ３版）		部 （電子コピー）
＊Ａ３版陽画複写 ２ッ折製本	部 （緑表紙文字書込）	部 （黒表紙、金文字印字）
＊電子データ （ＪＷＷ・ＰＤＦ）		部（ＣＤ-Ｒ） （ケース付,工事,図面名印刷）

＊　設計図は竣工時に、提供した設計図電子ﾃﾞｰﾀを受注者が訂正し、竣工図とする。

・竣工写真は監督員の指示により撮影を行い、次のものを提出のこと。

＊　外部　カラー　・キャビネ版（約 6　カット）

・サービス版（Ｌサイズ　約　　カット）

＊　内部　カラー　・キャビネ版（約　　カット）

・サービス版（Ｌサイズ　約　　カット）

＊　アルバム製本（黒表紙金文字入り）　　２　部

・　カラースライド（３５mmマウント加工）　　部

・　データ（ＣＤ-Ｒ）　２　部　　（ＪＰＧ又はＴＩＦ）

・　写真パネル半切　部　（外部１～２カット,内部２～３カット）

＊施工計画書（　部）

本工事の主要工事及び製作，加工，組立等を要するものには事前に施工計画書を提出し監督員の確認を得ること。

＊施工図

施工に際し、施工図、加工図、割付図等作製の上監督員の承諾を得て施工に着手のこと。

（竣工時）＊ＰＤＦデータ　１　部　・Ａ１版１部　・Ａ３版１部

＊協力業者一覧表、主要機器、材料メーカーリスト（　２　部）

決定前に選定リストを提出し、監督員の承諾を得ること。

＊その他の提出書類

＊工事着工届　（　１　部）

＊工事請負契約書写（　１　部）⊙工事費内訳明細書（　２　部）

＊工事工程表　（　２　部）

＊現場代理人届、主任技術者届（　２　部）

＊一級建築士(1級施工管理士)　・二級建築士

＊工事月間報告書　（　２　部）

＊機器取扱説明書（　１　部）　＊機器性能試験成績書（　１　部）

＊官公庁届出書類（　１　部）　＊各工事保証書　（　１　部）

＊建物等の利用、保全に関する説明書（　１　部）

＊その他監督員の指示に従い作成、提出のこと。（１．８．３）

⑩疑　義

＊本工事の設計図書に関する疑義は工事契約前に質疑応答書をもって確認しておかなければならない。

＊設計図書に記載なくとも外観上、構造上、施工上当然必要と認められるものは本工事内とし、監督員の指示に従い施工を行うこと。

⑪材料試験

＊本工事に使用する材料で、監督員より指示のあるものに関しては、その成積表を提出、または、監督員の認める試験所で試験を行い確認を受けなければならない。

⑫立合検査

＊建築主事並びに関係官公庁、事業会社等の立会検査を必要とするものは、監督員と打合せの上、請負者はその手続きを経て立会期日を定めなければならない。

＊施工後検査が困難になる工事は、随時監督員の立合検査を受け、必要により写真に記録しておくこと。

＊竣工検査は監督員の指示する日に竣工検査を受け、駄目直し、残工事等を一切完了しなければならない。

＊申請手続及び、検査に要する諸費用は全て請負者の負担とする。

＊工事中に発生する変更確認申請、昇降機申請、消防届、中間検査、完了検査等の各申請書、添付図書を監理者の指示に従い作成、提出すること。

⑬別途工事に対する調整

＊本工事受注者は、工事工程並びに納まり等に関して、別途工事各業者と密接に連絡して調整に当らなければならない。

⑭損害保険

＊受注者は本工事の全てに対して妥当な金額の損害保険（火災保険を含む）を付し、その写しを提出する。

⑮既存部分との取合

＊既存部分と今回工事の取合部分、その他ではつり及び工事の都合等により、破損、損傷させた箇所は、今回工事仕上げ及び旧仕上同材によって速やかに補修しなければならない。

＊取合部分以外においても今回工事による損傷とみとめられた時も同様とする。

⑯工事現場管理

＊労働基準法、労働安全衛生規則、その他関係法規を厳守し、工事現場の人身事故、火災、盗難防止に留意のこと。

＊本工事期間中付近住民及び通行者等の安全対策は十分に行うこと。

＊本工事により敷地外におよぼす破損、損傷等は請負者により速やかに原形復旧のこと。

⑰関係法令手続等

＊建築関係法規等（確認申請を含む）による、追加変更工事については本工事内とし、原則として工事請負金額の増減は認めない。

また、関係法令による是正指示があった場合は、速やかに処置し、その費用は請負者の負担とする。

＊本建物は建築基準法、消防法、各関連法令による他、富山県福祉条例等の関連法令に従い適切に施工のこと。

18.総合図の作成

＊施工図に先行し、総合図（平面詳細図,便所詳細図,展開図,天井伏図,縮尺1/50）を作成し、監督員の承諾を受けること。

＊建築工事施工者が元図（平面図,展開図,天井図等）を作成し、各関連工事施工者は協力して各機器類等を元図に記載し相互調整を行うこと。

・施工に先立ち、　　のﾓｯｸｱｯﾌﾟを製作すること。

（ｻｯｼ・建具・衛生器具・照明器具・弱電設備機器・冷暖房設備機器を含む）

2．仮設工事

1．監督職員事務所

・設ける（　㎡程度）　・設けない

＊監督職員事務所には以下のものを揃える

・更衣ロッカー、机、椅子、白板、図面収納用什器、掛時計

・安全靴、長靴、保安帽、雨合羽、安全帯、懐中電灯、防寒着

・電話機（受注者加入）、冷暖房設備、湯沸器、掃除具、消火器

・その他（応接セット、ＦＡＸ、コピー機、ＰＣ　台(ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ回線込)、監督員の指定するPCｿﾌﾄｳｴｱ、その他消耗品）

＊監督職員のための駐車場を監督職員事務所付近に設ける。構内に設けられない場合は、近隣に設ける。

＊監督職員事務所、駐車場の確保にかかる費用は施工者の負担とする。

② 工事用水　構内既存施設　＊利用できない　・利用できる（＊有償　・無償）

③ 工事用電力　構内既存施設　＊利用できない　・利用できる（＊有償　・無償）

④ 工事要員の駐車場　構内駐車施設　⊙利用できない　・利用できる（・有償　・無償）

⑤ 足場その他

＊枠組み足場を設ける場合は「手すり先行工法に関するガイドライン」（厚生労働省 平成21年4月）による手すり先行専用足場型とするか、または改善処置機材を用いて手すり先行専用足場型と同等の機能を有するものとする。　（2．2．4）

3．土工事

① 埋戻し、及び盛土　種別　・Ａ種　＊Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　（表３．２．１）

② 建設発生土の処理　・現場内処理（良質土のみ）　（３．２．５）

・構内敷均し　・構内指定場所堆積

＊ 場外に搬出処理

＊ 指定場所なし　・指定場所：

3．山留め　・工法　工法（現場状況により指示）　（３．３．１～３）

＊ 現場の状況等必要に応じ、安全性に配慮して施工にあたる。

4．5．6．7．

下記の各特記仕様書については、構造特記仕様書による。

４．地業工事　５．鉄筋工事

６．コンクリート工事　７．鉄骨工事

ただし、６．コンクリート工事の一部は次による。

6．コンクリート工事

1．コンクリートの仕上り

・打放し仕上げＡ種

せき板、剥付図、セパレータ割付図を作成し提出する。監理者の指示により施工実施前に、計画されている仕様に基づき試験打設を行い、コンクリート面の仕上がり状態を確認する。寸法、精度については監理者と協議する。せき板の材質については、打放し面に著しい色調の発生がないように検討し報告する。

化粧打放しコンクリート仕上げとして認められないような施工結果になった場合は、協議の上、専門施工業者による補修を実施する。

8．コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事

1．コンクリートブロック積み　＊空洞ブロック１６　・空洞ブロック１６-Ｗ　（８．２．１～８．３．８）

2．ＡＬＣパネル　（８．４．１～２）

種　別			
厚　さ			
適用範囲			

外壁パネルの取付種別

・Ａ種　・Ｂ種　（表８．４．２）

間仕切パネルの取付種別

・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種　（表８．４．３）

3．押出成形セメント板（ＥＣＰ）　（８．５．１～５）

種　別			
厚　さ			
寸　法			
表面形状			
適用範囲			

外壁パネルの取付工法種別　・Ａ種　・Ｂ種　（表８．５．１）

間仕切りパネルの取付工法種別　・Ｂ種　・Ｃ種　（表８．５．２）

*開口補強鋼材の大きさは、パネル製造所の指定サイズとする。

9．防水工事

1．アスファルト防水　（９．２．１～５）

種　別			
適用範囲			

保証年限　＊１０年保証

平場の防水保護層　（９．２．２）（９．２．５）

＊普通コンクリート　・豆砂利コンクリート　・軽量コンクリート

溶接金網　６φ－１５０□

厚さ　＊８０mm　・６０mm

伸縮目地　＊成形伸縮目地　巾２５mm

立上り部の防水保護　（９．２．２）（９．２．５）

・普通コンクリート（１８N/mm2）押さえ

・煉瓦　・煉瓦型ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ（市販品）　・煉瓦（市販品）

・乾式保護材　・押出成形セメント板　ｔ１５×Ｗ３００

2．改質アスファルトシート防水　（表９．３．１～３）

種　別			
厚　さ			
適用範囲			

保証年限　＊１０年保証

3．合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水　（表９．４．１～２）

種　別			
厚　さ			
適用範囲			

保証年限　＊１０年保証

株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内３丁目４番１６　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

管理建築士　一級建築士　登録第179507号　堀田　富士雄
設計担当者　一級建築士　登録第201967号　松原　崇

工事名称　庄川小学校耐震改修事業　２期外構工事

図面名称　特記仕様書１

DRAWN　T．M／K．A　DATE　H27．09　SCALE A1：－ A3：－

No 2G－01

③ グレーチング　材種・規格　図　示　（２１．２．２）

④街きょ、縁石及び側溝
・縁石　（形状・寸法）　（２１．４．１～３）
・Ｌ型側溝　（形状・寸法）
・Ｕ型側溝　（形状・寸法）
・Ｕ型側溝蓋　（形状・寸法）　⊙形状、寸法は図示

２２．舗装工事

① 盛土に用いる材料
・Ａ種　＊Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　（２２．２．３）
・建設汚泥から再生した処理土　（表３．２．１）

２．凍上抑制層の材料
＊再生クラッシャラン　・クラッシャラン　・切込み砂利　（２２．２．２）

３．路床安定処理
＊添加材料による安定処理　（２２．２．２）
・普通ポルトランドセメント　・フライアッシュセメントＢ種
・高炉セメントＢ種
・生石灰（　　）　・消石灰（　　）

４．路床の試験
a.・路床土の支持力比試験（ＣＢＲ）　（２２．２．５）
＊行う　（＊乱した土　・乱さない土）
b.・路床締固め度試験　＊行う
c.・砂の粒度試験　＊行う

⑤ 路盤材料
＊再生クラッシャラン（ＲＣ－４０）　（２２．３．３）
・クラッシャラン鉄鋼スラグ（ＣＳ－４０）

６．路盤の試験
＊路盤の締固め度試験　＊行う
Ⅲ地域は、躯体内面より600mm、Ⅳ地域は450mmとする

⑦ アスファルト舗装
車道部の基層　＊無し　・有り　（２２．４．２）　（表２２．４．１）
ｱｽﾌｧﾙﾄの材料　＊再生アスファルト　（２２．４．３）
・ストレートアスファルト
加熱アスファルト混合物の種類　（２２．４．４）　（表２２．４．６）

区　分	・一般地域	＊寒冷地域
表　層	＊密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物（13）	＊密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物（13Ｆ）
	・細粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物（13）	・細粒度ｷﾞｬｯﾌﾟｱｽﾌｧﾙﾄ混合物（13Ｆ）
基　層	・細粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物（２０）	

シールコート　＊行わない　・行う（施工範囲：　　）
ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物の抽出試験　＊行わない　・行う　（２２．４．６）

⑧ コンクリート舗装
早強セメント　＊使用しない　・使用する　（２２．５．３）
目地材料　＊注入目地材　＊低弾性タイプ　・高弾性タイプ
・ｱｽﾌｧﾙﾄ目地板材
溶接金網　＊有り　・なし　⊙図示

⑨ カラー舗装　（２２．６．２）　（表２２．６．１）

	舗装の種類	車道部の基層
＊加熱系	＊アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物	＊無し　・有り
・常温系	・樹脂系混合物 ・ニート工法 ・塗布工法	＊無し　・有り

骨材　・着色骨材（焼成）　・着色骨材（樹脂被覆）
・自然石（　　）

１０．透水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装
舗装の厚さ　車道部　＊50㎜　・　㎜　（２２．７．２）
歩道部　＊30㎜　・　㎜
ｱｽﾌｧﾙﾄの種類　車道部　＊ﾎﾟﾘﾏｰ改質ｱｽﾌｧﾙﾄⅠ型　（表２２．７．１）
歩道部　＊ｽﾄﾚｰﾄｱｽﾌｧﾙﾄ
ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物の抽出試験　＊行わない　・行う　（２２．４．６）

１１．排水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装
舗装の厚さ　車道部　＊50㎜　・　㎜
歩道部　＊30㎜　・　㎜
ｱｽﾌｧﾙﾄの種類　＊ﾎﾟﾘﾏｰ改質ｱｽﾌｧﾙﾄⅡ型　（表２２．８．１）
ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物の抽出試験　＊行わない　・行う　（２２．４．６）

１２．ブロック系舗装
・コンクリート平板舗装　（２２．９．１～５）
＊普通平板　・透水平板
寸法　＊３００×３００×ｔ６０　目地材　＊砂　・モルタル
表面仕上　・研出し　・洗い出し　・たたき出し

・インターロッキングブロック（ＩＬＢ）舗装

種　類	曲げ強度	厚さ（㎜）	表面加工・色彩等
＊普通タイプ ・誘導、注意喚起用	5Mpa以上	車道部 ＊８０・	＊標準タイプ ・表面化粧タイプ 誘導・注意喚起用は黄色とする
・透水性タイプ	3Mpa以上	歩道部 ＊６０・	
・植生タイプ	8Mpa以上	＊１００ ・８０	

・舗石舗装
種類　＊小舗石（花崗岩）　・　厚さ　＊80～100㎜
施工方法　＊うろこ張り　・
基層　＊コンクリート舗装　・アスファルト舗装

⑬.路面表示
路面表示用塗料：ＪＩＳ　Ｋ５６６５
（区画線）

種　類	施工時条件	適用	区画線の寸法	色彩
・１種	常温	液状	幅　＊１５０㎜ 厚さ　＊１．０㎜	＊白 ・黄色
・２種	加熱			
＊３種１号	溶融	粉体状		

区画線以外の表示　＊図示

１５.砂利敷き
種別　通路　＊Ａ種　（２２．１０．１～３）
建物周囲・その他　＊Ｂ種
・玉砂利（　　）　径　㎜　厚さ　㎜

２３．植栽及び屋上緑化工事

１．植栽地の確認
・土壌の水素イオン濃度試験　・行う　（２３．１．３）
・水溶性塩類（ＥＣ）の試験　・行う

２．植栽基盤整備
芝及び地被類　（表２３．２．１）

適　用	有効土層厚さ(cm)	工法	整備範囲
＊行う ・行わない	＊２０	＊Ｂ種	＊植栽範囲 ・図示

樹木等　（表２３．２．１～２）

樹木の樹高(m)	有効土層厚さ(cm)	工法	整備範囲
・１２以上	＊１００	＊Ａ種	＊葉張りの範囲ただし、低木は植栽範囲
・７以上～１２未満	＊８０	・Ｂ種	
・３以上～７未満	＊６０	・Ｃ種	
・３未満	＊５０	・Ｄ種	・図示

工法Ｄ種以外の工法で、現場地盤高が同一でない場合は、計画地盤高からを有効土層とするただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う

③ 植込み用土
＊現場発生土の改良土　・客土（＊畑土　・黒土）　（２３．２．３）

４．土壌改良材
＊適用する　＊バーク堆肥　・下水汚泥発酵肥料
土壌改良材を使用する場合、土壌改良材と土壌との適合性を証明する資料を提出する

５．支柱
＊丸太又は間伐材　・竹　（２３．３．２）

６．幹巻き用材料
＊幹巻き用テープ　・わら及びこも　（２３．３．２）

⑦ 芝張り
種類　＊高麗芝　・野芝　（２３．４．２）

８．吹付けは種
種子の種類　＊洋芝類　・クローバー　（２３．４．４）
採取後２年以内

９．屋上緑化
植栽基盤及び材料　（２３．５．１～５）
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ　＊図示
保水、排水層　・軽量骨材（層の厚さ：　）　・板状成形品
植込み用土　＊改良土　・人工軽量土
樹木の種類、寸法等　＊図示
・屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の種類等　＊図示
支柱　・設置する（種類　・　＊図示）　（２３．５．４）
かん水装置　・設置する

２４．試験・保障など

１．性能確認試験

２１．排水工事

① 排水管
排水管材料・径　（２１．２．１）
図　示　（表２１．２．１）

② 排水桝及び蓋
材種・規格　（２１．２．２）
図　示

株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内３丁目４番１６　ＴＥＬ（076)492-1225(代)
ＦＡＸ（076)492-7200
管理建築士　一級建築士　登録第179507号　堀田　富士雄
設計担当者　一級建築士　登録第201967号　松原　崇

工事名称　庄川小学校耐震改修事業　２期外構工事
図面名称　特記仕様書２
DRAWN　T．M／K．A　DATE　H27．09　SCALE A1：－ A3：－
No 2G－02

構 造 特 記 仕 様

適用は、☑印を記入する。

1．建築物の構造内容

（1） 工事名称　庄川小学校耐震改修事業　２期外構工事
　　建築場所　砺波市庄川町金屋

（2） 工事種別　□新築　□増築　□増改築　□改築

（3） 構造種別
□木造（W）　□補強コンクリートブロック造（CB）　□鉄骨造（S）
□鉄筋コンクリート造（RC）　□壁式鉄筋コンクリート造（WRC）
□鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）　□壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）
□プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）

（4） 階数　地下　階　地上　３階　塔屋　階

（5） 主要用途　学校

（6） 屋上付属物
□消化用充水槽　ｋＮ　□キュービクル　ｋＮ　□広告塔　□煙突

（7） 特別な荷重
□エレベータ　人乗（□ロープ式　□機械室レス）□リフト　ｋＮ□ホイスト
□倉庫積載床用　Ｎ／m²　□受水槽　ｋＮ

（8） 付帯工事
□門塀　□擁壁　□渡り廊下　□　□

（9） 増築計画　□有（　）□無

（10） 構造計算ルート　Ｘ方向ルート　３－（　）　Ｙ方向ルート　３－（　）

2．使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（1）コンクリート

適用箇所	種　類	設計基準強度 Fc=N/mm²	品質管理強度 Fc=N/mm²	スランプ cm	単位水量 kg/m³	水セメント比 %	備考
捨コンクリート	☑普通	18		15	185	58	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応区分A 25cm
工作物ｺﾝｸﾘｰﾄ	☑普通	18		15	185	58	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応区分A
基礎・地中梁	□普通	21	27	15	175	58	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応区分A
柱・梁・床・壁	□普通	21	27	15	175	58	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応区分A
ﾗｯﾌﾟﾙコンクリート	□普通	18		15			
押えコンクリート	□普通、□軽量	21	24	15	185	58	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応区分A
細骨材の種類	☑ 砂　□ 山砂　□ 人工						外気温によるｺﾝｸﾘｰﾄ強度の補正（加算する補正値）
粗骨材の種類	☑ 砂利　☑ 砕石　□ 人工						2℃以下 打設時期、強度ｾﾒﾝﾄ、寒中ｺﾝｸﾘｰﾄの採用などを検討する 2℃～10℃ 6N/mm²
水の区分	☑ 水道水　□ 地下水　□ 工業用水						
混和材料の種類（JIS　）	☑ AE減水剤　□ 高性能AE減水剤　□						
呼び強度を保証する材齢、養生	☑ 材齢　（☑ 28日　□ 56日　□　）						10℃～ 3N/mm²
	□ 養生　（□ 現場封かん　□ 現場水中　□ 標準）						

（2）コンクリートブロック（CB）
□Ａ種　□Ｂ種　□Ｃ種　厚　□100　□120　□150　□190

（3）鉄筋

種　類	径	使用箇所	継手工法
☑ SD295A	D16以下	壁,ｽﾗﾌﾞ HOOP,STP	☑ 重ね継手 D10～D16
□ SD295B			
□ SD345	D19以上	柱,基礎,梁	☑ ガス圧接継手 D19以上
□ SD390			
□ 785N/mm²			□ 特殊継手（　）
□ SR235			
□	φ6		

異形鉄筋／高強度せん断補強筋／丸鋼／溶接金網（JIS G 3551）

（4）鉄　骨

種　類	使用箇所	現場溶接	備　考
□SS400　□SM400　□SN400A、B、C	梁	□有　□無	
□STKR400　□STKR490　□STK400	柱	□有　□無	
□BCR295　□BCP325　□	柱	□有　□無	
□SM490A　☑SN490B　□SN490C		□有　□無	
□SSC400　□		□有　□無	

（5）ボルト　　○使用箇所の詳細については別途図示とする
□高力ボルト　（□M12 ，□M16 ，□M20 ，□M22 ，□M24）
□F10T(JIS B1186)　☑S10T 認定番号（　）　□F8T 認定番号（　）
□中ボルト　高力ボルトすべり係数試験　□要　□否
高力ボルト導入張力確認試験　□要　□否
□アンカーボルト
□SNR490　M　L=　mm　ナット（□シングル、□ダブル）
☑SS400　M　L= 400 mm　ナット（□シングル、☑ダブル）
□ ベースパック
□頭付スタッドボルト
φ=　L=　mm　使用箇所（□柱　□大梁　□小梁）
φ=　L=　mm　使用箇所（□柱　□大梁　□小梁）

（6）屋根、床、壁

種　類	型式　厚　その他	使用箇所	仕様・構法
ALC　(JIS A 5416)	厚	□壁　□床版	□ｽﾗｲﾄﾞ　□ﾎﾞﾙﾄ止め　□ﾛｯｷﾝｸﾞ　□
折版	H=　厚	□屋根　□	□　□
特殊デッキプレート（JIS G 3352）	型式　厚	□床版　□	□　□
デッキプレート（JIS G 3352）	型式 EZ-50 厚 1.2	□床版　□	□　□
キーストンプレート（JIS G 3352）	型式　厚	□床版　□	□　□

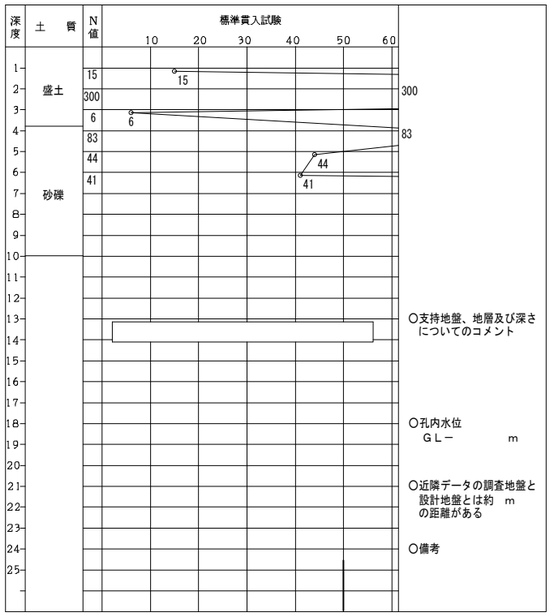
3．地盤

（1） 地盤調査資料と調査計画
☑有（☑敷地内　□近隣）　□無　（調査計画　□有　□無）

調　査　項　目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査			静的貫入試験		
水平地盤反力係数の測定			土質試験		
試験堀（支持層の確認）			平板載荷試験		
ｽｪｰﾃﾞﾝ式ｻｳﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ			現場透水試験		
標準貫入試験			液状化判定		
物理探査			ＰＳ検層		

注）上記表中の資料があるもの、調査計画があるものに○を記入する。

（2） ボーリング標準貫入値、土質構成　（基礎・杭の位置を明記すること）



4．地業工事

（1） 直接基礎　ﾗｯﾌﾟﾙ GL-3～4m
□ベタ基礎　□布基礎　□独立基礎　試験堀　□有　□無
深さ GL－ 2.5m　支持層－　、長期許容支持力度　250kN/m²　載荷試験　☑有　□無

（2） 地盤改良　□浅層混合処理工法　□深層混合処理工法　□
深さ GL－ m 、長期許容支持力度　kN/m²　載荷試験　□有　□無
注）「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参考とする

（3） 杭基礎　深さ GL－ m　支持層－

杭　種	材　料	施　工　法	備　考
□RC　□PRC □PHC　□H鋼 □鋼管　□摩擦杭 □PRC節杭 □SC	PRC（□Ⅰ種 □Ⅱ種 □Ⅲ種） PHC（□A種 □B種 □C種） 鋼材 □SS400 □SKK400 □JIS	□打込み □埋込み（セメントミルク工法） □Hi・FB工法 □ □	大臣認定第　号 年　月　日
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc=　N/mm² Fq=　N/mm² スランプ　cm以下 セメント量　kN/m³ 鉄　筋　主　筋　SD HOOP　SD	□オールケーシング　□拡底杭 □リバースサーキュレーション □アースドリル　□ミニアース □BH　□深礎（□手堀 □機械掘）	認定 第　号 年　月　日

杭仕様　□施工計画書承認　□杭施工結果報告書
試験杭　（□有　□無）　（□打ち込み　□載荷　□孔壁測定）　本

杭径（mm）	設計杭耐力（kN/本）	杭の先端の深さ（m）	本数	特記事項

5．鉄筋コンクリート工事　（施工方法等計画書）

（1） コンクリート
☑ コンクリートはＪＩＳ認定工場の製品とし施工に関しては JASS5（1997）による。
☑ 耐久設計基準強度　Ｆｄ　☑一般　□標準　□長期
☑ セメントは、ＪＩＳ　Ｒ５２１０の普通ポルトランドセメントを標準とする。
☑ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
☑ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
□ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
□ 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体（JASS5T-603）は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当り６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。
☑ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が２５℃未満の場合は１２０分、２５℃以上の場合は９０分以内とする。

（2） 鉄　筋
☑ 鉄筋はＪＩＳ Ｇ ３１１２の規格品を標準とする。
□ 高強度せん断補強筋はＪＩＳ Ｇ ３１３７に規定されるD種１号適合品とする
☑ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね継手長さ、定着長さは、「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」による。
☑ Ｄ１９未満は、すべて重ね継手とする。継手（Ｄ１９以上）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
☑ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと（２００箇所を越えるときは、２００箇所ごと）に１回行い、１回の試験は５本以上とする。
外観検査　□有　□無、　引張試験　□有　□無、　超音波探傷試験　□有　□無
☑ 柱の帯筋（HOOP）の加工方法は、□H型（タガ型）□W型（フラッシュバット溶接型）□S型（スパイラル型）とする。

☑ コンクリート及び鉄筋の試験は原則として公的試験機関で行うこと。
試験機関名
代行業者名
代行業者とは、試験、検査に伴なう業務を代行する者をいう。

（3） 型　枠
☑ 材料　合板厚１２m／m を標準とする。　☑ 施工はＪＡＳＳ５による
☑ 型枠存置期間

種類 / 部位	せき板				支柱		
	基礎、はり側、柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下
セメントの種類 / 平均気温 / 存置期間の欄	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
コンクリートの材令（日） 15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
0℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5N／mm²		設計基準強度の50％		設計基準強度の 85％		100％

注）１　片持梁、庇、スパン9.0m以上の梁下は、工事監理者の指示による。
注）２　大梁の支柱の盛りかえは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注）３　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）４　盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材又は、これに代わるものを置く。
注）５　支柱盛りかえは、小梁が終わってから、スラブを行う。
　　一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注）６　上記以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6．鉄骨工事　（施工方法等計画書）

（1） 鉄骨工事は指示のない限り下記による
☑ 日本建築学会「ＪＡＳＳ６」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
□ 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
□

（2） 工事監理者の承認を必要とするもの
☑ 製作工場　☑ 製作要領書　☑ 工作図　☑ 施工計画書
☑ 認定または登録工場（　Ｍ　グレード）
☑ 材料規格証明書または試験成績書
☑ 鋼材　☑ 高力ボルト　☑ 特殊ボルト　□ 頭付スタッド
☑ 社内検査表　□　□

（3） 工事監理者が行う検査項目
（□印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
☑ 現寸検査　☑ 組立・開先検査　☑ 製品検査
☑ 建方検査　□　□
※　上記検査は工事監理者と協議の上、写真及び打合せ議事録提出としても可の場合もある。

（4） 接合部の溶接は下記によること
□ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱溶鋼（建築構造設計指針第１２章）
☑ 日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
☑ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

（5） 接合部の検査
□ 溶接部の検査溶接部の検査（溶接結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 社内	第三者	工事監理者	備　考
☑ 突合せ溶接部	超音波探傷試験	１００％ 個	３０％ 個	０％ 個	
☑ 溶接部	外観（目視）検査	１００％	３０％	０％	
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関名とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注）現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。
注）現場溶接は、超音波探傷試験を１００％行う事。
□ 高力ボルトは「ＪＩＳ　Ｂ１１８６の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラスト、による処理で表面あらさが５０Ｓ以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
□ 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。
締付け後の検査は、締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。

（6） 防錆塗装
□ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、ＪＩＳ Ｋ５６２１ 、２回塗りを標準とする。
□ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し２回塗りとする。

（7） 耐火被覆の材料
□ ロックウール吹付　プロベストR－S　25mm
ＰＰ０６０ＣＮ－９４６０、ＰＰ０６０ＢＭ－９４０８

7．設備関係

□ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
□ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
□ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの１／３以下とし管の間隔を管径の３倍以上かつ５ｃｍ以上を原則とする

8．その他

☑ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
☑ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
☑ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること
☑ 打込み・締め固め方法
［ＪＩＳ８６１０コンクリート棒型振動機を使用し確実に充填する。］
□ 打継ぎ部の処理方法
［打継ぎ面を鉄筋と垂直にする。］
［構造部材の耐力低下が少なく、かつ打継部の処理が円滑に行える形状とする。］
［打継ぎ部の鉄筋は連続している。（ＥＸＰ．Ｊを除く）］
☑ 養生方法
［ＪＡＳＳ５による。］
□ 六価クロム溶出試験
・配合設計の段階で実施する環境庁告示第４６号溶出試験とする。
・浅層地盤改良部分にも適用する。

株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内３丁目４番１６　ＴＥＬ（076)492-1225(代)
ＦＡＸ（076)492-7200

管理建築士　一級建築士　登録第179507号　堀田　富士雄
設計担当者　一級建築士　登録第201967号　松原　崇

工事名称 庄川小学校耐震改修事業　２期外構工事
図面名称 構造設計標準仕様
DRAWN　DATE Ｈ２７．０９　SCALE NON
No 2G－03

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

(1)　構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2)　記号

d‥異形棒鋼の呼び名に用いた数値　丸鋼では径　　D‥部材の成　　R‥ 直径

@‥間隔　　r‥半径　　℄‥中心線　　ℓ_o‥部材間の内法寸法　　ho‥部材間の内法高さ

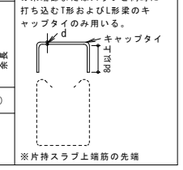
ST‥あばら筋　　HOOP‥帯筋　　S.HOOP‥補強帯筋　　φ‥直径又は丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

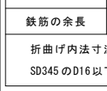
(1)　鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d以上	6d以上（※4d以上）	8d以上（※4d以上）

折曲げ内法寸法 R は、SR235は3d以上、SD295A、SD295B、SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上



(2)　鉄筋中間部の折曲げの形状　鉄筋の折曲げ角度 90° 以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内のり寸法（R）
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ D16 以下	3d以上
			19φ D19 以上	3d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ D16 以上	3d以上
			19φ～25φ D19～D25	6d以上
			28φ～32φ D29～D38	8d以上

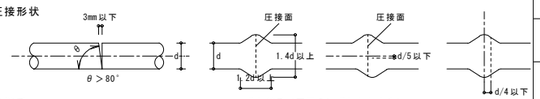
(3)　鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲（N／mm²）	定着の長さ 一般（L2）	定着の長さ 下ば筋（L3） 小梁	定着の長さ 下ば筋（L3） スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ（L1）
SD295A SD295B SD345 SDR295 SDR345	18	40d	25d または 15d フックつき	10d かつ 15cm以上	45d または 35d フックつき
	21 24				40d または 30d フックつき
	27～36				35d または 25d フックつき
SD390	21 24				45d または 35d フックつき
	27～36				40d または 30d フックつき

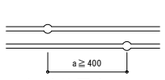
継　手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29 以上の異径鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

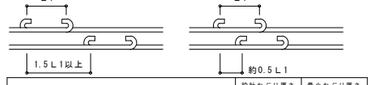
ガス圧接形状



圧接継手



重ね継手（下図のいずれかとする）



(4)　かぶり厚さ（単位：mm）

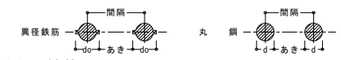
ひび割れ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。

部位			設計かぶり厚さ (mm)	最小かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内	30	30(20)
		屋外	40(1)	30(20)
	柱 はり 耐力壁	屋内	40	30
		屋外	50(2)	40(1)(30)
	擁壁		50(3)	40
土に接する部分	柱・はり・床スラブ・耐力壁		50	40(4)
	基礎・擁壁		70	60(4)

〔注〕(1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。
(2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
(3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
(4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
(5) （ ）内は仕上げがある場合。
改定により標準かぶり厚さは10mm増し

(5)　鉄筋のあき

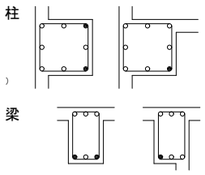
丸鋼では径、異径鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上
粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上



(6)　鉄筋のフック（a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。）

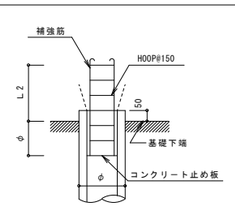
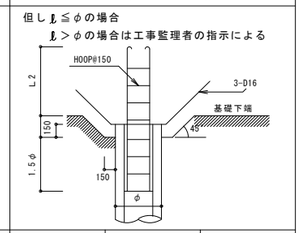
a. 丸鋼　b. あばら筋、帯筋　c. 煙突の鉄筋
d. 柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）
e. 単純梁の下端筋
f. その他、本配筋標準に記載する箇所

図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



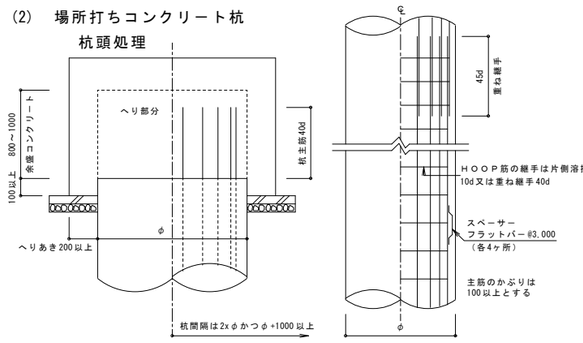
３．杭　（地震力等の水平力を考慮する必要のある場合は、別途検討すること。）

(1)　ＰＣ杭、又はＰＨＣ杭の全てに補強を行う

所定の位置に止まった場合			所定より低く止まった場合		
			但し $\ell_o \leqq \phi$ の場合 $\ell_o > \phi$ の場合は工事監理者の指示による 		
杭　径	300φ、350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補強筋	6－D13	8－D13	10－D13	8－D16	10－D16
ＨＯＯＰ	D10－@150				

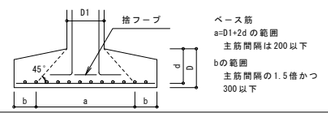
(2)　場所打ちコンクリート杭

杭頭処理

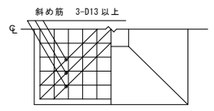


４．基　礎

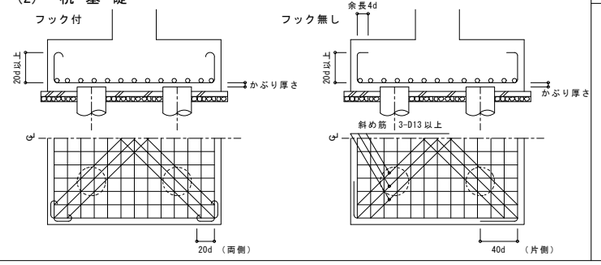
(1)　直接基礎



ベース筋
a=D1+2d の範囲
主筋間隔は200以下
bの範囲
主筋間隔の1.5倍かつ300以下

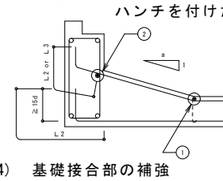


(2)　杭基礎



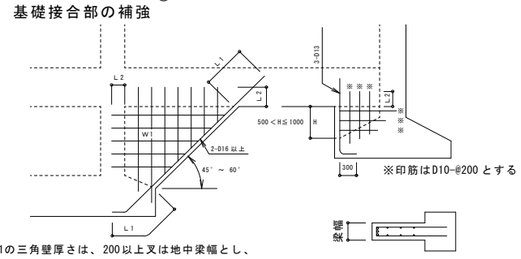
(3)　べた基礎

ハンチを付けた場合（a≧3）



1. 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
   但し上筋と下筋を読みかえる
2. ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3. ②の鉄筋はD13以上
4. 埋戻し土のある場合は40を70とする

(4)　基礎接合部の補強

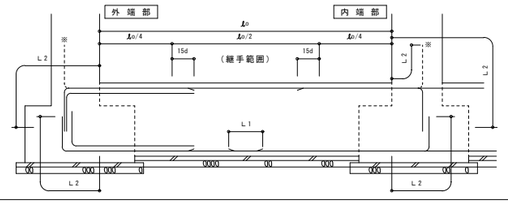


W1の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、配筋は同厚の壁リストにならう

H≦500は※印筋は不用とする

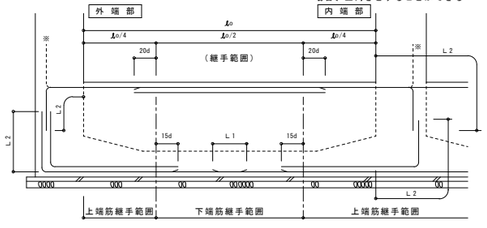
５．地中梁

(1)　独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）



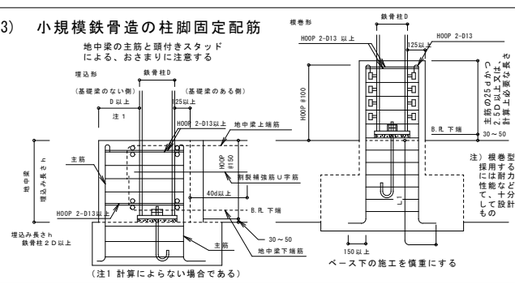
(2)　布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）

※上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる

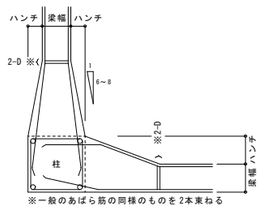


(3)　小規模鉄骨造の柱脚固定配筋

地中梁の主筋と頭付きスタッドによる、おさまりに注意する

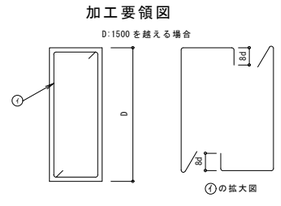


(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



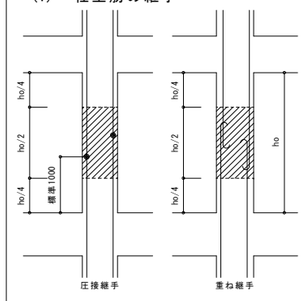
※一般のあばら筋の同様のものを2本束ねる

(5) せいの高い梁のあばら筋加工要領図

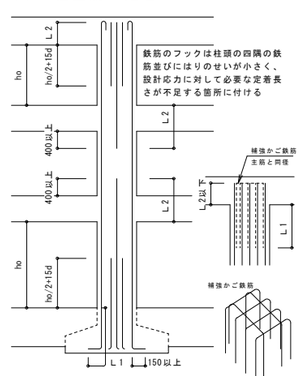


６．柱

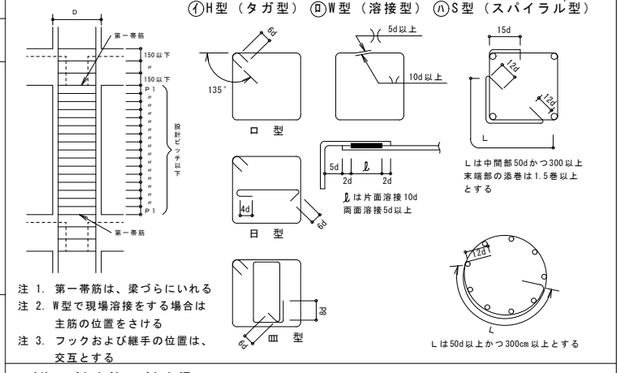
(1)　柱主筋の継手



(2)　柱主筋の定着



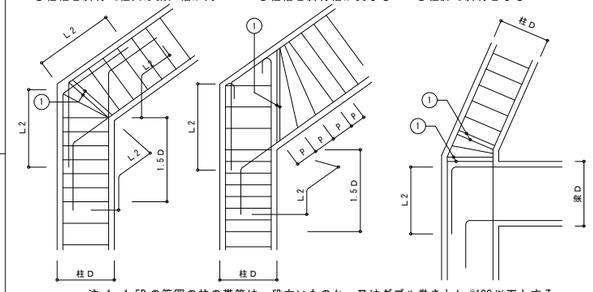
(3)　帯　筋



注 1. 第一帯筋は、梁づらにいれる
注 2. W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける
注 3. フックおよび継手の位置は、交互とする

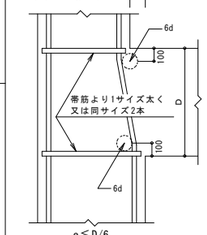
(4)　斜め柱・斜め梁

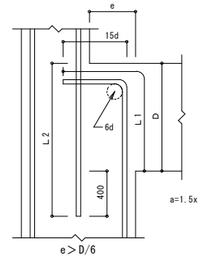
○柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一　　○柱幅と斜材幅が異なる　　○柱脚で斜材となる



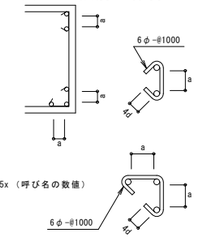
注 1. 1.5D の範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし @100 以下とする
注 2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

(5)　絞り





(6)　二段筋の保持



株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内3丁目4番16　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

管理建築士　一級建築士　登録第179507号　堀田　富士雄
設計担当者　一級建築士　第99857号
構造設計一級建築士　第 1883号　森　一夫

工事名称　庄川小学校耐震改修事業　２期外構工事
図面名称　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）
DRAWN　DATE　H27．09　SCALE　NON
No 2G－04

鉄　骨　構　造　標　準　図

1．　一般事項

（1）　材料及び検査

（a）　構造設計仕様及び建築工事共通仕様書（平成２２年度版）による

（b）　適用範囲は，鋼材を用いる工事に適用し，かつ鋼材の厚さが４０mm以下のものとする

（c）　社内検査結果の検査報告書には，鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する

（2）　工作一般

（a）　鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る

（b）　鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による

（c）　高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする

（3）　高力ボルト接合

（a）　本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない

（4）　溶接接合

（a）　溶接技能者

溶接技能者は施工する溶接に適応するＪＩＳ　Ｚ３８０１（手溶接）又はＪＩＳ　Ｚ３８４１（半自動溶接）の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする

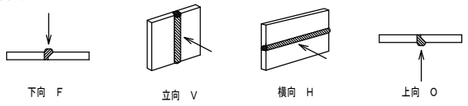
（b）　溶接機器

（イ）　交流アーク溶接機　　３００A～５００A
（ロ）　アークエアーガウジング機（直流）
（ハ）　サブマージアーク溶接機１式
（ニ）　炭酸ガスアーク半自動溶接機
（ホ）　溶接電流を測定する電流計
（ヘ）　溶接棒乾燥器

（c）　溶接方法

アーク手溶接　（MC）
セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接　（NGC）
ガスシールドアーク半自動溶接　（GC）
アークエアーガウジング　（AAG）

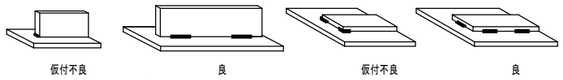
（d）　溶接姿勢



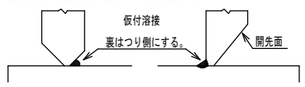
（e）　組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う

（イ）仮付位置

組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となりやすい箇所は避ける



（ロ）　完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



（f）　溶接施工

（イ）　エンドタブ

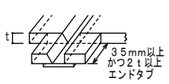
Ⅰ）完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける

Ⅱ）エンドタブの材質は、母材と同質とする

Ⅲ）エンドタブの長さは、MC：３５mm以上

NGC、GC：４０mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より１０mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする

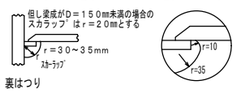
Ⅳ）ブレース鋼板タブ゛、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る



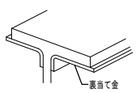
（ロ）裏あて金

材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で６mm、半自動溶接で９mm以上とする

（ハ）スカーラップ　半径は３０～３５mmと、１０mmのダブルアールとする



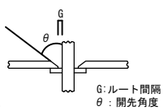
（ニ）ノンスカーラップ工法



（ホ）裏はつり

基準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークをつける

（ヘ）現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。
又、開先部をいたためない様に、養生を行なう



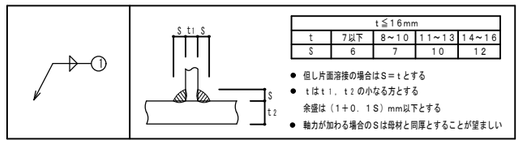
（5）　塗　装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

塗料種類	１種	２種	塗り回数
Ｋ－５６２１	○		工場　　２回
Ｋ－５６２２			
Ｋ－５６２３			
Ｋ－５６２５			

2．　溶接規準図　（注）　f：余盛　G：ルート間隔　R：フェース　S：脚長　（単位mm）

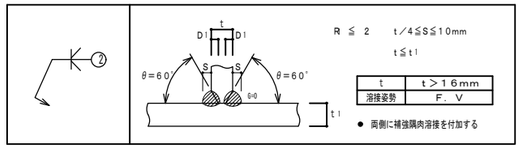
（1）　隅肉溶接



t≦16mm				
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

- 但し片面溶接の場合はS＝tとする
- tはt１，t２の小なる方とする
  余盛は（1＋0．1S）mm以下とする
- 軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

（2）　部分溶け込み溶接　（使用箇所に注意）

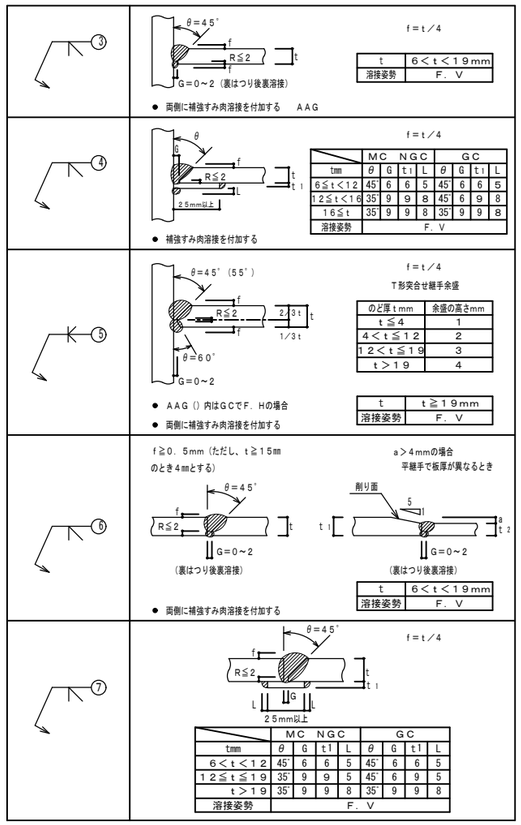


R ≦ 2　　t／4≦S≦10mm
t≦t1

t	t＞16mm
溶接姿勢	F．V

- 両側に補強隔肉溶接を付加する

（3）　完全溶込み溶接　（平継手　T形継手）



f＝t／4

t	6＜t＜19mm
溶接姿勢	F．V

- 両側に補強すみ肉溶接を付加する　AAG

f＝t／4

	MC			NGC			GC		
tmm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	θ	G	t1	L
6≦t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	45°	6	6	5
12≦t＜16	35°	9	9	8	45°	6	9	45°	6	9	8
16≦t	35°	9	9	8	35°	9	9	35°	9	9	8
溶接姿勢	F．V										

- 補強すみ肉溶接を付加する

f＝t／4
T形突合せ継手余盛

のど厚t mm	余盛の高さmm
t≦4	1
4＜t≦12	2
12＜t≦19	3
t＞19	4

t	t≧19mm
溶接姿勢	F．V

- AAG（）内はGCでF．Hの場合
- 両側に補強すみ肉溶接を付加する

f≧0．5mm（ただし、t≧15mmのとき4mmとする）

a＞4mmの場合
平継手で板厚が異なるとき

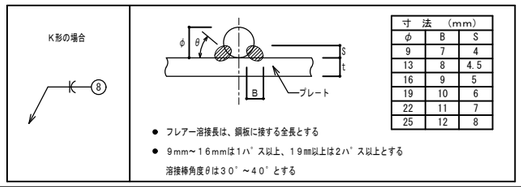
t	6＜t＜19mm
溶接姿勢	F．V

- 両側に補強すみ肉溶接を付加する

f＝t／4

tmm	MC θ	MC G	MC t1	MC L	NGC θ	NGC G	NGC t1	NGC L	GC θ	GC G	GC t1	GC L
6＜t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	45°	6	9	5	45°	6	9	5
t＞19	35°	9	9	8	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F．V											

（4）　フレアー溶接



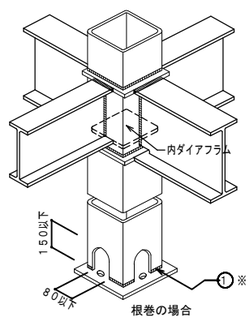
寸　法　（mm）		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

- フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
- 9mm～16mmは1パス以上、19mm以上は2パス以上とする
  溶接棒角度θは30°～40°とする

○溶接記号番号を○中に記入のこと

＜柱材料：ＢＣＲ２９５、ＢＣＰ３２５を使用する場合＞
ダイヤフラムは、ＳＮ４９０Ｂ・Ｃ、ＳＭ４９０同等以上の鋼材を使用すること。
ダイヤフラム厚は、接合する柱・梁の最大厚の２サイズアップとする。

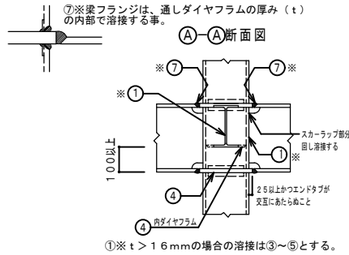
●ＢＯＸ型　（通しダイヤフラムの場合）



根巻の場合

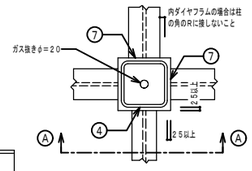
①※ｔ＞１６mmの場合の溶接は③～⑤とする。

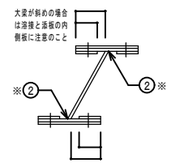
⑦※梁フランジは、通しダイヤフラムの厚み（ｔ）の内部で溶接する事。



①※ｔ＞１６mmの場合の溶接は③～⑤とする。

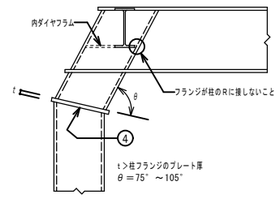
平面詳細



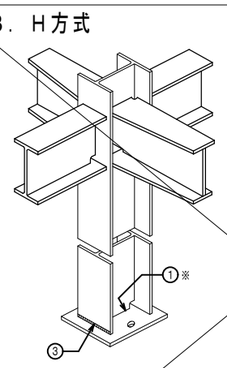


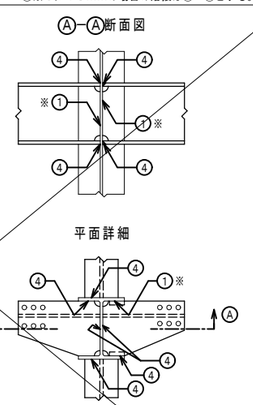
②※ｔ＞１６mmの場合の溶接は③～⑤とする。

●柱が途中で折れる場合及梁成が異なる場合



●Ｂ．Ｈ方式





●鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱（KJ/cm）	パス温度差（℃）
400Ｎ級鋼	JIS Z 3211，3212，3214 YGW-11，15 YGW-18，19 YGA-50W，50P	40以下	350以下
490Ｎ級鋼	JIS Z 3212，3214 YGW-11，15 YGW-18，19 YGA-50W，50P	40以下 30以下 40以下	350以下 250以下 350以下

①※ｔ＞１６mmの場合の溶接は③～⑤とする。

3．　継手規準図、その他

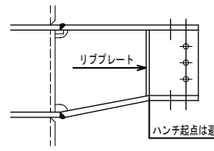
（1）　ボルトピッチ（Ｐ）　ボルト穴径・最小縁端距離

（mm）

呼び	ボルト穴径	最小縁端距離 (1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	ピッチ 最小	標準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	26	40	50	60
M22	24	55	38	28	40	55	60
M24	26	60	44	32	45	60	70

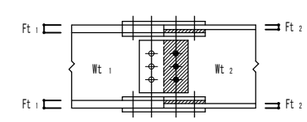
注　（1）　引張材の接合部で応力方向にボルトが３本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
　　（2）　せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
　　（3）　圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

（2）　ハンチ部の継手



ハンチ勾配は普通１：４程度であるが構造図による

フランジ及ウェブ厚の差のある場合



Ft１－Ft２／Wt１－Wt２≧1mm フィラプレート併用のこと

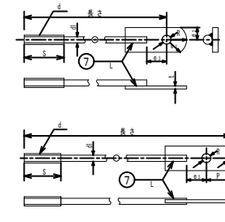
（3）　鉄筋ブレース　（ＪＩＳ規格品とする・・・ＪＩＳ５５４０・・・１９８２／５５４１・５５４２・・・１９９３）

（a）　羽子板ボルト

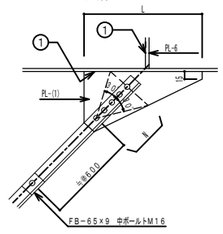
ねじの呼び（d）			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径d１	最大		10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最小		10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差＋0　−0.5mm		R	13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき（最小）	(2)	e1	35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき（最小） (1)	e2	22	28	28	34	34	38	38
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき（最小） (1)	e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴心のあき（最小）		e3	47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ（最小）		L	40	50	55	60	75	85	85
(2) 取付ボルト	種類		ＪＩＳ Ｂ １１８６　２種高力ボルト　（Ｆ１０Ｔ）　又は ＪＩＳ Ｂ １１８０　中８ｇ１０．９						
	ねじの呼び		M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本数		1	1	1	1	1	1	2

注　（1）　e１、e２が確保されていれば形状は自由でよい
　　（2）　羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする

（b）　羽子板ボルト

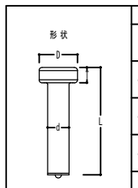


形鋼ブレース



（4）　頭付きスタッド（ＪＩＳ１１９８）

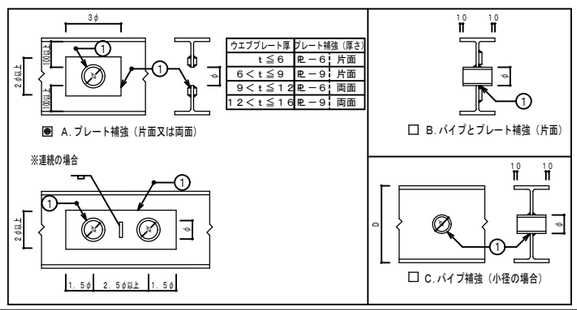
スタッド材の標準形状・寸法



スタッド材 呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	溶接後の長さ L mm
φ１３mm	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50，80，100，130
φ１６mm	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	80，100，130
φ１９mm	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80，100，130，150
φ２２mm	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100，130，150

（5）　梁貫通補強

注（1）計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらなくて良い
　（2）梁端部（スパンのＬ／１０以内かつ２Ｄ以内）は避ける
　（3）φ≦0．4Ｄ
　（4）ウエブプレート厚さが９mmを越える場合は、両面補強とする。
　（5）貫通孔間隔は、２．５φ以上（径が異なる場合は平均径）
　（6）材端と補強プレートとの隙間は梁成以上とする。



ウエブプレート厚	プレート補強（厚さ）
t≦6	PL－６：片面
6＜t≦9	PL－９：片面
9＜t≦12	PL－６：両面
12＜t≦16	PL－９：両面

株式会社　押田建築設計事務所
富山市丸の内３丁目４番１６　ＴＥＬ（076）492-1225(代)
ＦＡＸ（076）492-7200

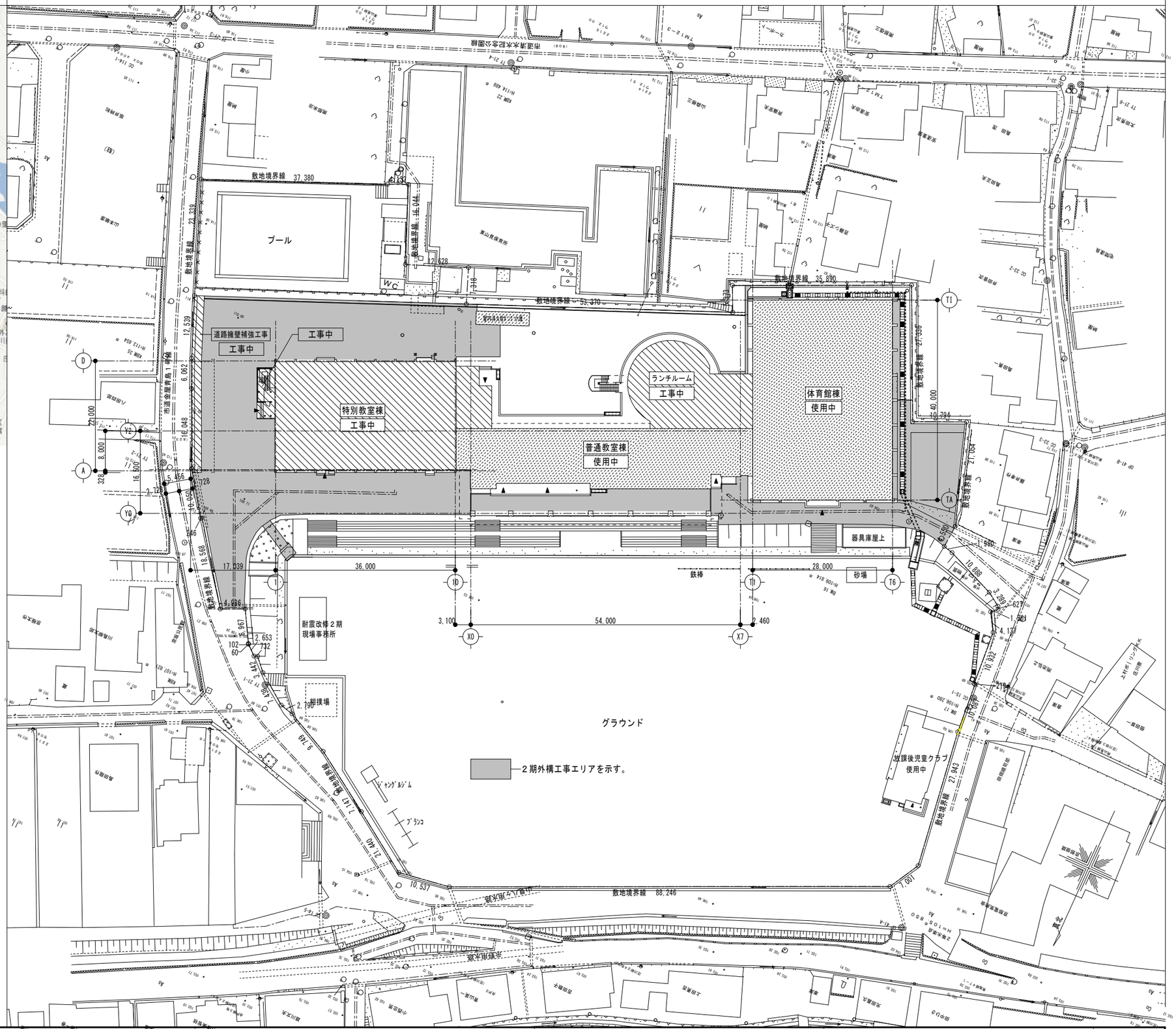
管理建築士	一級建築士　登録第179507号　堀田　富士雄	工事名称	庄川小学校耐震改修事業　２期外構工事
設計担当者	一級建築士　第99857号 構造設計一級建築士　第１８８３号　森　一夫	図面名称	鉄骨構造標準図
DRAWN	DATE：Ｈ２７．０９	SCALE：NON	No 2G－05

付近見取図

※ (250) 設計ＧＬからの高さを示す。

現況図

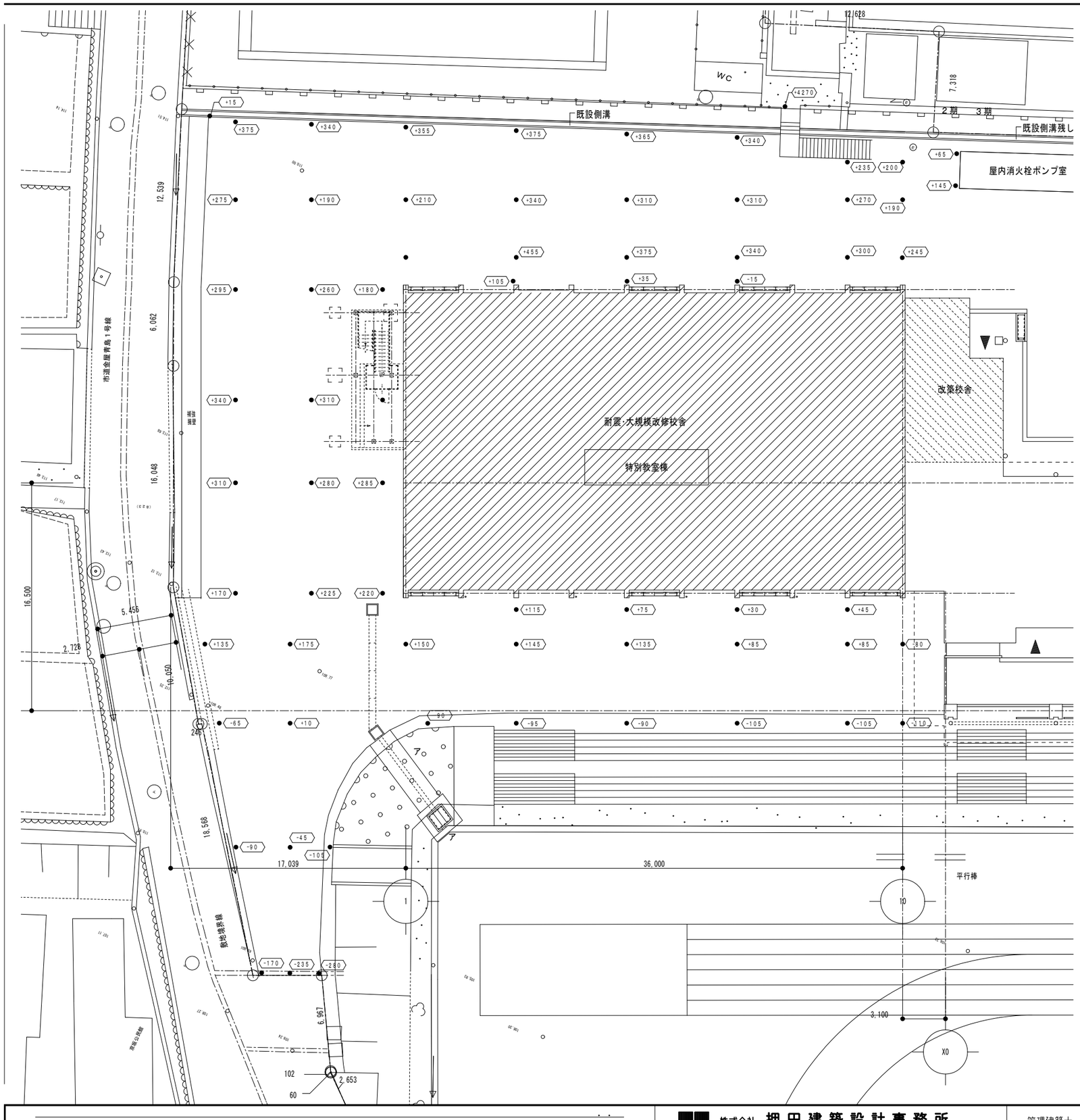
S１／８００



株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内３丁目４番１６　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

管理建築士	一級建築士　登録第179507号　堀田　富士雄
設計担当者	一級建築士　登録第201967号　松原　崇

工事名称	庄川小学校耐震改修事業　２期外構工事		
図面名称	現況図・付近見取図		No 2G－06
DRAWN T．M／K．A	DATE H27．09	SCALE A1：1/400 A3：1/800	



凡　例

+300 ――現状レベルを示す

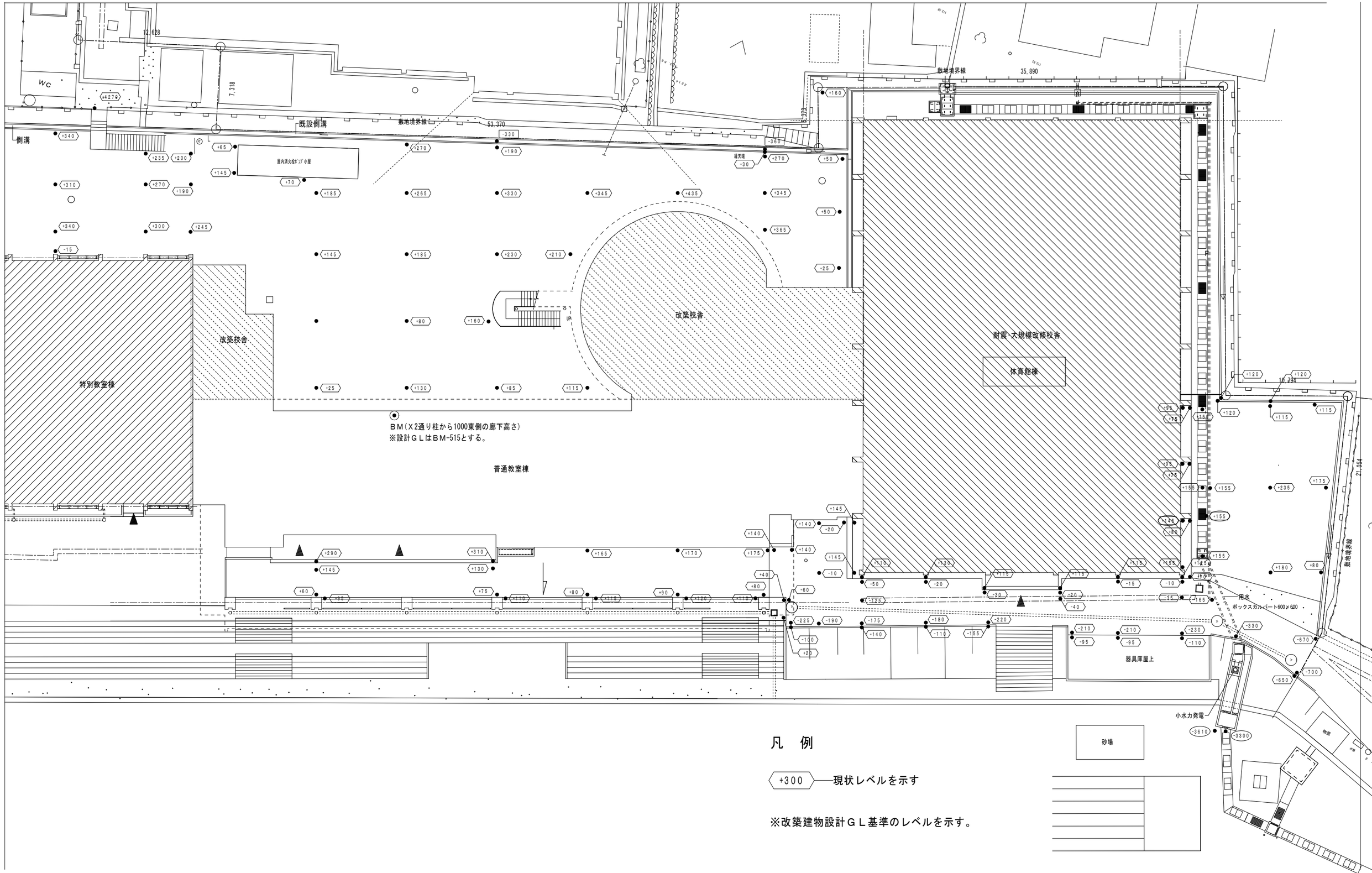
※改築建物設計ＧＬ基準のレベルを示す。

※設計ＧＬはＢＭ-515とする。

ＢＭ（Ｘ2通り柱から1000東側の廊下高さ）

株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内3丁目4番16　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

管理建築士	一級建築士 登録第179507号 堀田 富士雄	工事名称 庄川小学校耐震改修事業 2期外構工事	
設計担当者	一級建築士 登録第201967号 松原 崇	図面名称 特別教室棟廻り現況レベル図	
		DRAWN T. M／K. A / DATE H27. 09 / SCALE A1：1/150 A3：1/300	No 2G－07



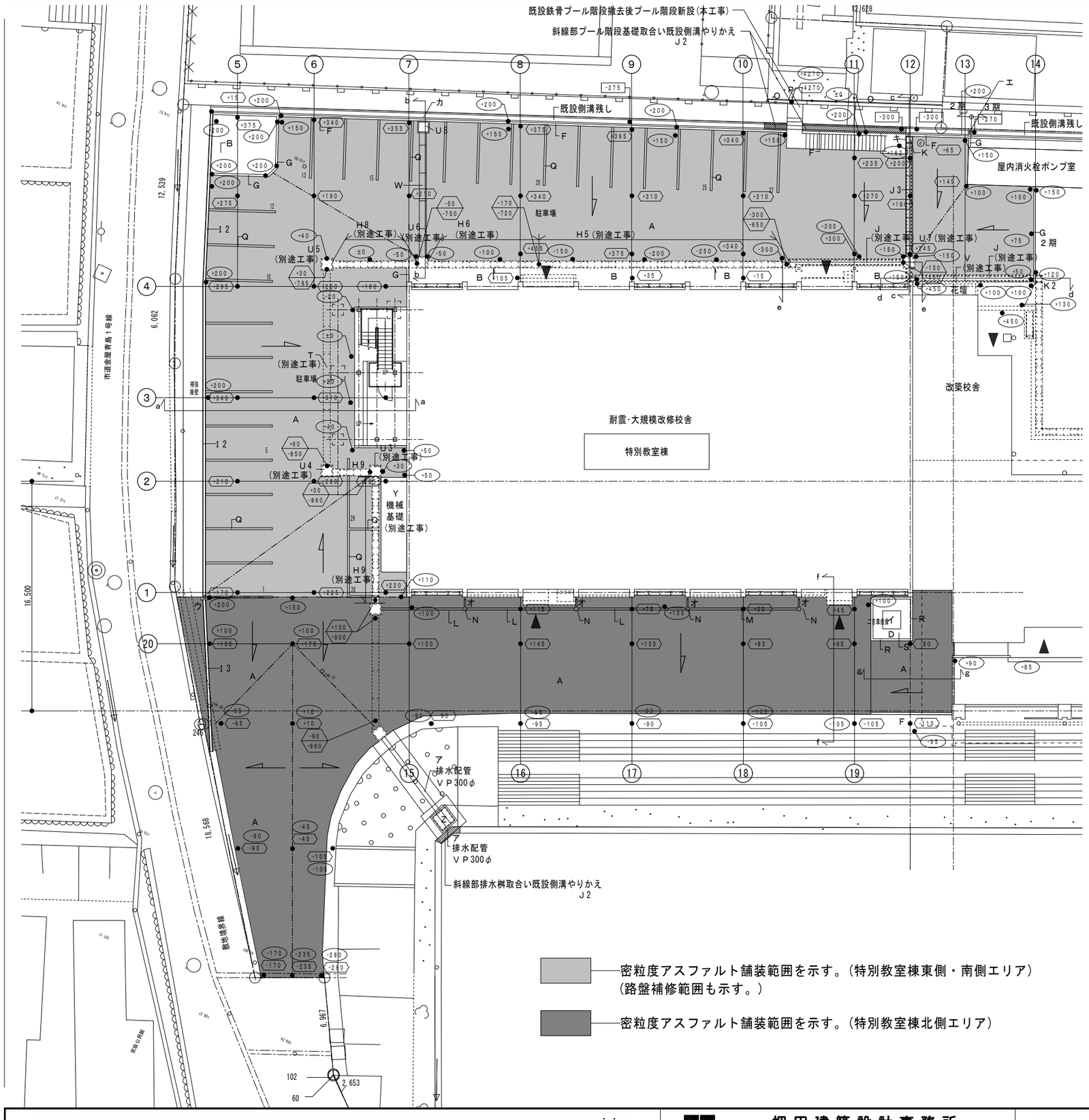
凡　例

+300 ——現状レベルを示す

※改築建物設計ＧＬ基準のレベルを示す。

株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内3丁目4番16　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

管理建築士	一級建築士 登録第179507号 堀田 富士雄	工事名称 庄川小学校耐震改修事業 2期外構工事	
設計担当者	一級建築士 登録第201967号 松原 崇	図面名称 普通教室棟・体育館廻り現況レベル図	No 2G－08
		DRAWN T. M／K. A / DATE H27. 07 / SCALE A1：1/150 A3：1/300	



符　号	仕　様	備　考
A	密細粒度アスファルト舗装　ｔ５０	本工事
B	コンクリート舗装ｔ１５０　金ごて仕上げ	本工事
C	カラーアスファルト舗装	本工事
D	山砂盛土	本工事
E	耕土盛土	別途工事
F	歩車道境界ブロックＡ	本工事
G	地先境界ブロック１５０×１５０	本工事
H	自由勾配側溝Ｗ３００	別途工事
I	Ｕ型側溝Ｗ１８０	本工事
I2、I3	I2：Ｕ型側溝Ｗ１５０ I3：Ｕ型側溝Ｗ１５０＋T-6細目グレーチング	本工事
J、J2	現場打ちコンクリート側溝W300×H300	プール階段取合いJ2：本工事 その他J、J2：別途工事
J3	現場打ちコンクリート側溝W300×H300～400	本工事
K、K2	既製排水桝Ｗ３６０	K：本工事 K2：別途工事
L	排水管ＶＰ２００φ	本工事
M	排水管ＶＰ１５０φ	本工事
N、N1	N：小口径桝３００φ N1：小口径桝２００φ	本工事
O	フェンスＨ＝１，２００　基礎既製品 （メッシュフェンス）	本工事
P	フェンスＨ＝１，２００　扉Ｗ＝９００	本工事
Q	溶融式白線引きＷ１５０	本工事
R	ミカゲ石縁石　１５０×１５０	本工事
S	芝貼り	本工事
T	ボックスカルバート400×400	別途工事
U	排水桝Ｗ６００	U3～U7：別途工事 U8：本工事
V	現場打ちコンクリート花壇立上がり新設	別途工事
W	ボックスカルバート300×300	本工事
X	既製コンクリート排水桝Ｗ３００	本工事
Y	機械設備室外機基礎	別途工事
Z	排水桝Ｗ１１００	本工事
ア	排水管ＶＰ３００φ	本工事
イ	二宮尊徳像移設設置	本工事
ウ	溢水用仕切板（Ｕ型側溝Ｗ１５０用）	本工事
エ	溢水用仕切板(既設側溝Ｗ３００用)	本工事
オ	タテドイ接続配管工事　ＶＰ１２５φ	本工事
カ	Ｕ８　既設側溝取合い仕切板取付枠、仕切板	本工事
キ	Ｋ既製桝　導水部ステンレス仕切板　ｔ2.0 及び取付枠	本工事

密粒度アスファルト舗装範囲を示す。(特別教室棟東側・南側エリア)
(路盤補修範囲も示す。)

密粒度アスファルト舗装範囲を示す。(特別教室棟北側エリア)

凡　例

+300 ―― 現状レベルを示す

+100 ―― 仕上げレベルを示す

-100 ―― 桝・側溝　天端レベルを示す
-800 ―― 桝・側溝　底面レベルを示す

-300 ―― 側溝　底面レベルを示す

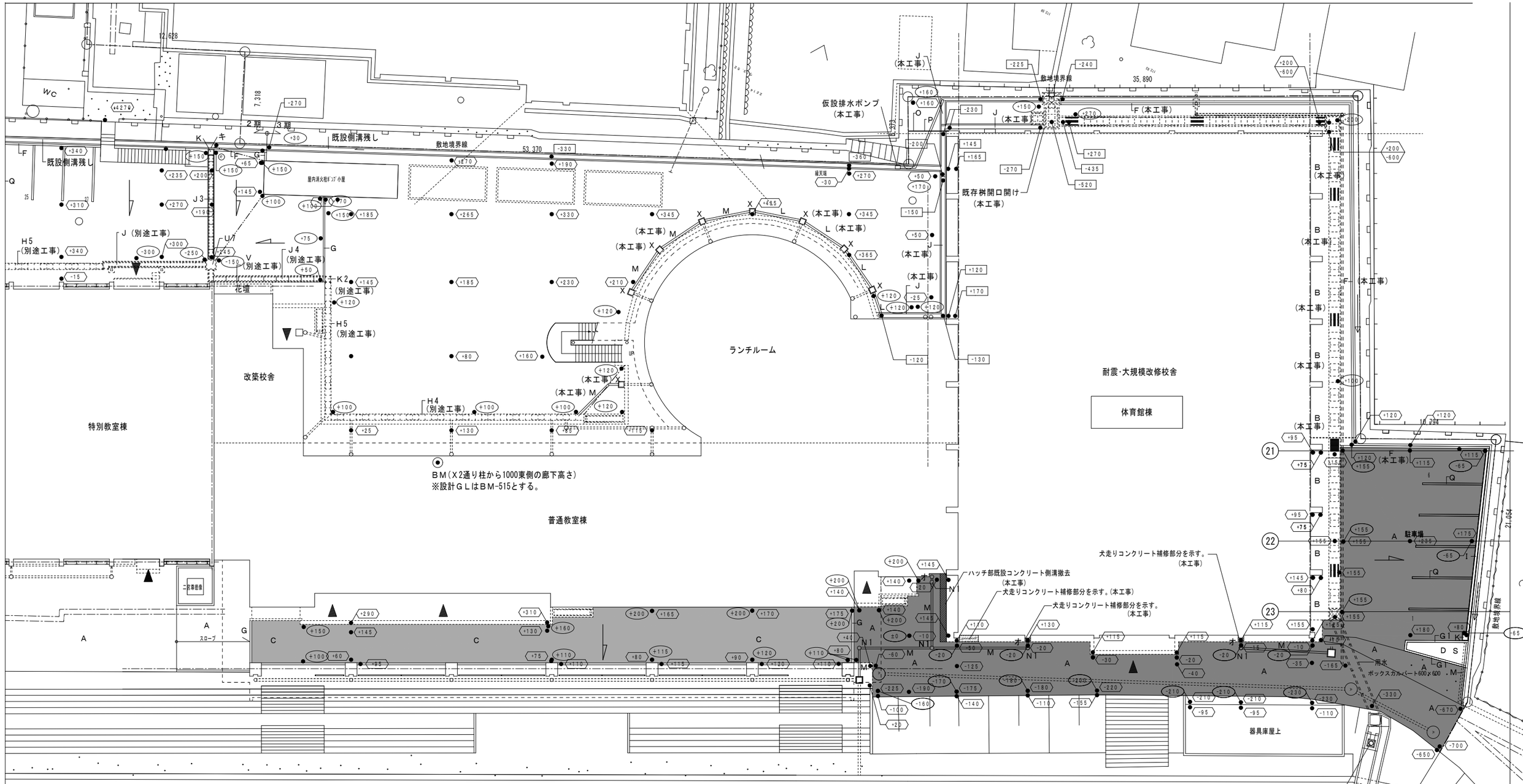
※改築建物設計ＧＬ基準のレベルを示す。

株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内3丁目4番16　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

管理建築士　一級建築士　登録第179507号　堀田　富士雄
設計担当者　一級建築士　登録第201967号　松原　崇

工事名称　庄川小学校耐震改修事業　２期外構工事
図面名称　特別教室棟廻り外構平面図
DRAWN　T．M／K．A
DATE　H27．09
SCALE　A1：1/150　A3：1/300

No 2G－09

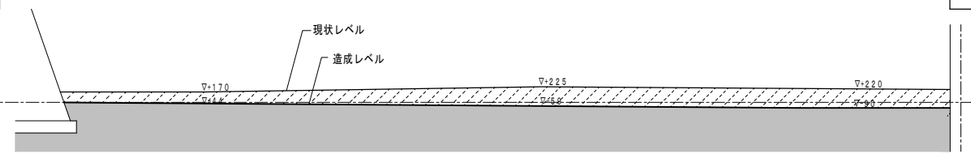


株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内3丁目4番16　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

管理建築士	一級建築士 登録第179507号 堀田 富士雄	工事名称 庄川小学校耐震改修事業 2期外構工事	
設計担当者	一級建築士 登録第201967号 松原 崇	図面名称 普通教室棟・体育館廻り外構平面図	No 2G－10
		DRAWN T. M/K. A / DATE H27. 09 / SCALE A1：1/150 A3：1/300	

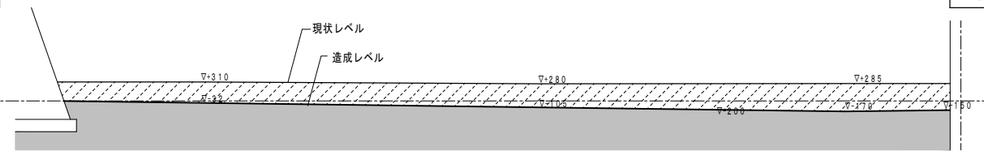
①

スキ取り断面積：3.88㎡



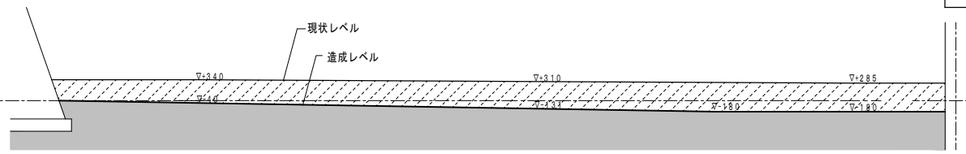
②

スキ取り断面積：5.60㎡



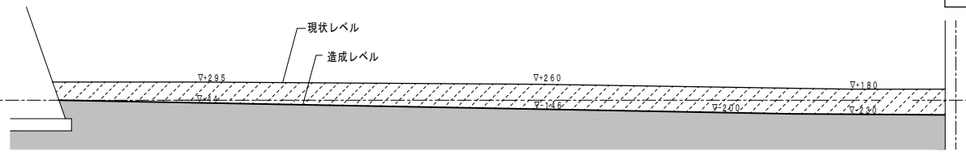
③

スキ取り断面積：6.20㎡



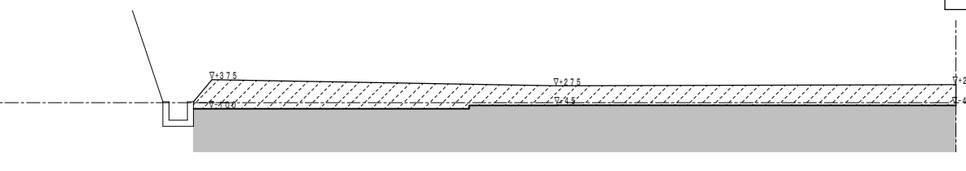
④

スキ取り断面積：5.55㎡



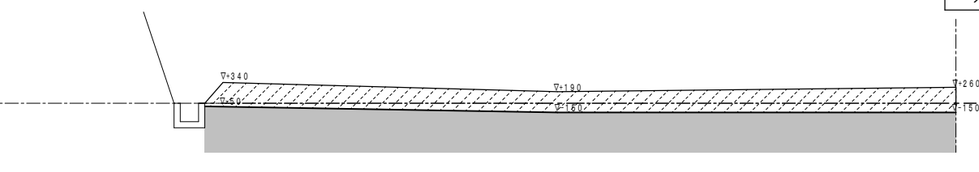
⑤

スキ取り断面積：4.55㎡



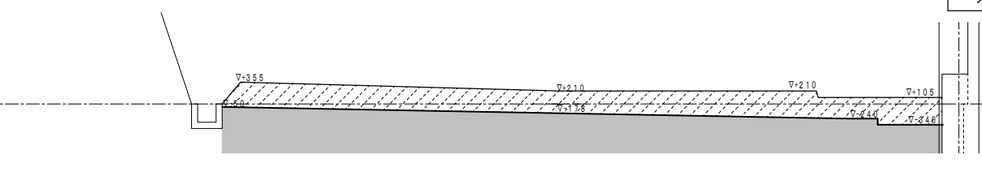
⑥

スキ取り断面積：4.51㎡



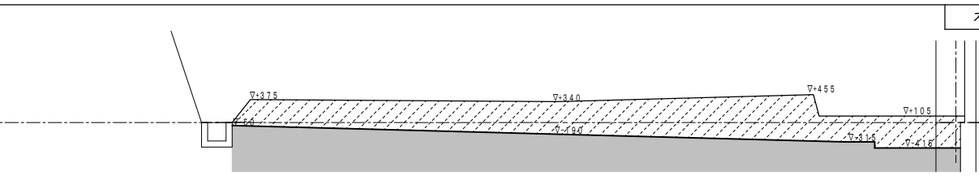
⑦

スキ取り断面積：4.57㎡



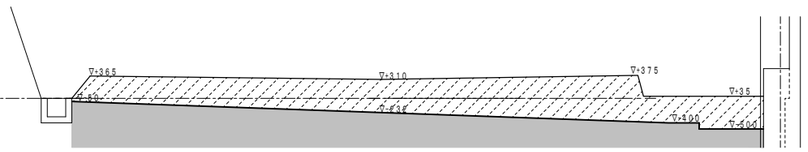
⑧

スキ取り断面積：6.33㎡



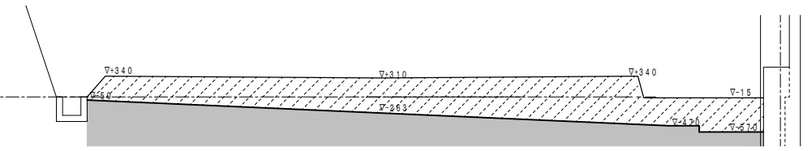
⑨

スキ取り断面積：6.09㎡



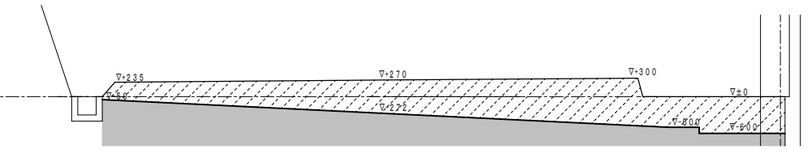
⑩

スキ取り断面積：6.16㎡



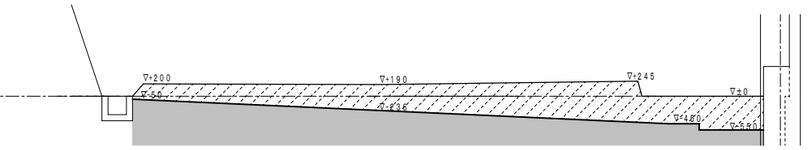
⑪

スキ取り断面積：5.96㎡



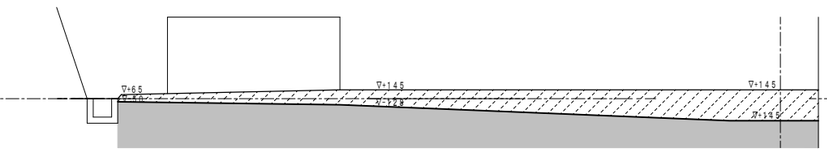
⑫

スキ取り断面積：4.68㎡



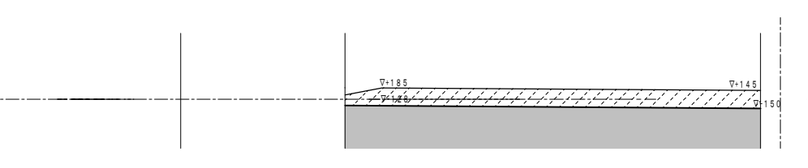
⑬

スキ取り断面積：3.76㎡



⑭

スキ取り断面積：1.94㎡



株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内3丁目4番16　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

管理建築士　一級建築士　登録第179507号　堀田　富士雄

設計担当者　一級建築士　登録第201967号　松原　崇

工事名称　庄川小学校耐震改修事業　2期外構工事

図面名称　特別教室棟　東・南側廻り造成断面図

DRAWN　T. M／K. A

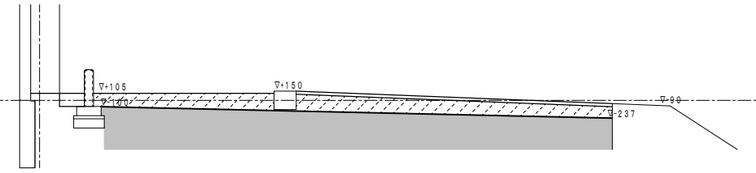
DATE　H27．09

SCALE　A1：1/50　A3：1/100

No 2G－11

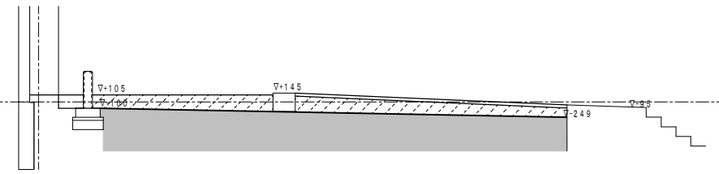
⑮

スキ取り断面積：2.05㎡



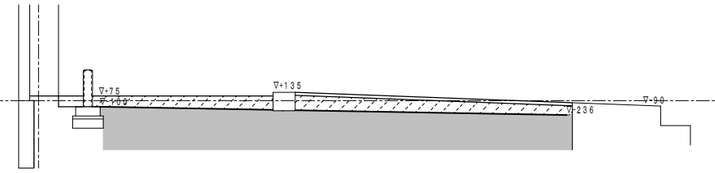
⑯

スキ取り断面積：1.74㎡



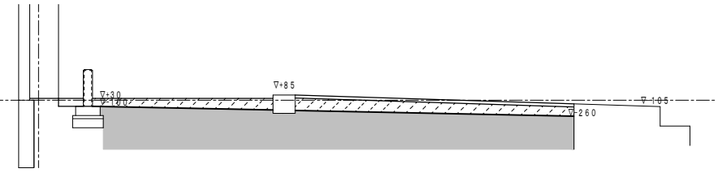
⑰

スキ取り断面積：1.57㎡



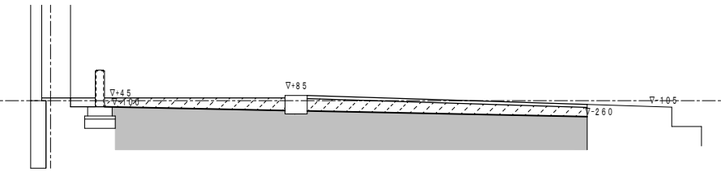
⑱

スキ取り断面積：0.80㎡



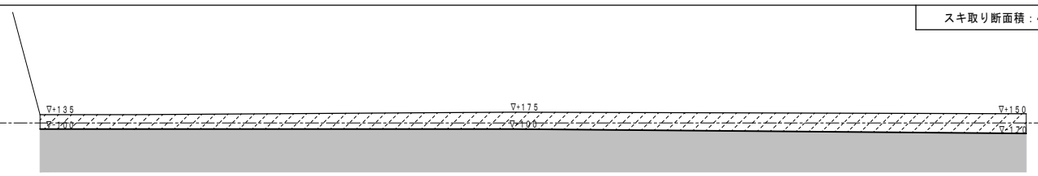
⑲

スキ取り断面積：0.81㎡



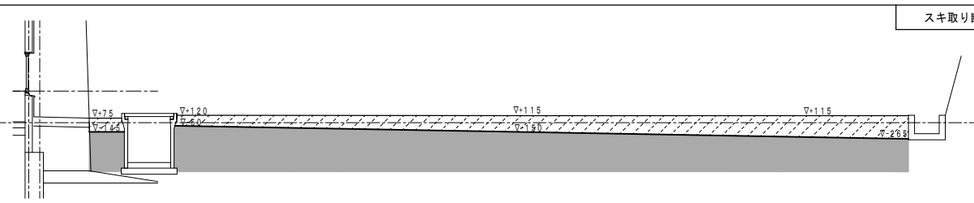
⑳

スキ取り断面積：4.47㎡



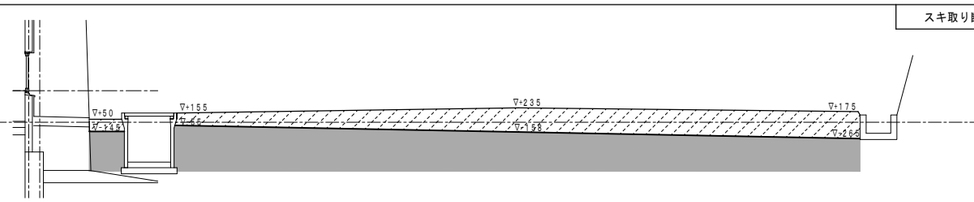
㉑

スキ取り断面積：3.28㎡



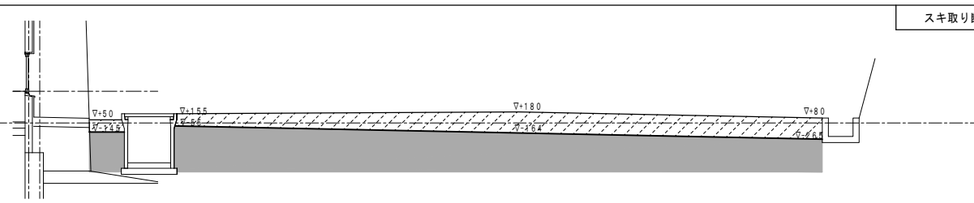
㉒

スキ取り断面積：4.00㎡



㉓

スキ取り断面積：3.23㎡



株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内3丁目4番16　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

管理建築士　一級建築士　登録第179507号　堀田　富士雄

設計担当者　一級建築士　登録第201967号　松原　崇

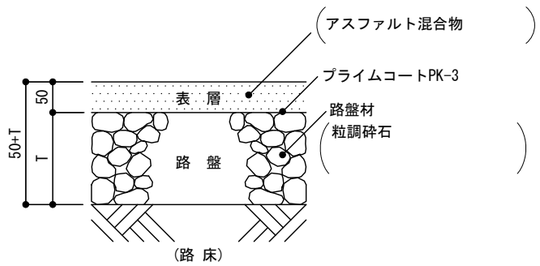
工事名称　庄川小学校耐震改修事業　2期外構工事

図面名称　特別教室棟北側　体育館西側造成断面図

DRAWN T. M／K. A　DATE H27．09　SCALE A1：1/50 A3：1/100

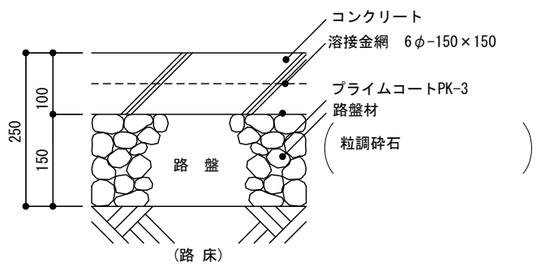
No 2G－12

A　密粒度アスファルト舗装ｔ５０　　S＝１：１０

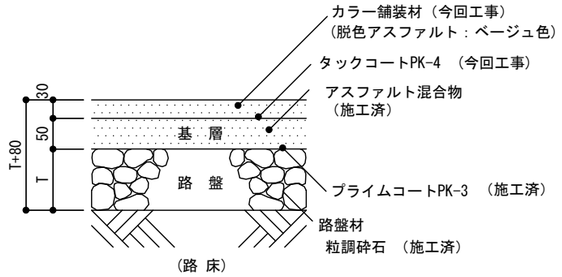


T(mm):150

B　コンクリート舗装ｔ１５０　　S＝１：１０

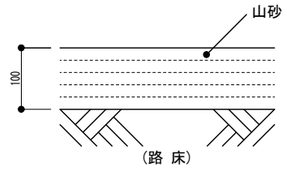


C　カラーアスファルト舗装ｔ３０　　S＝１：１０

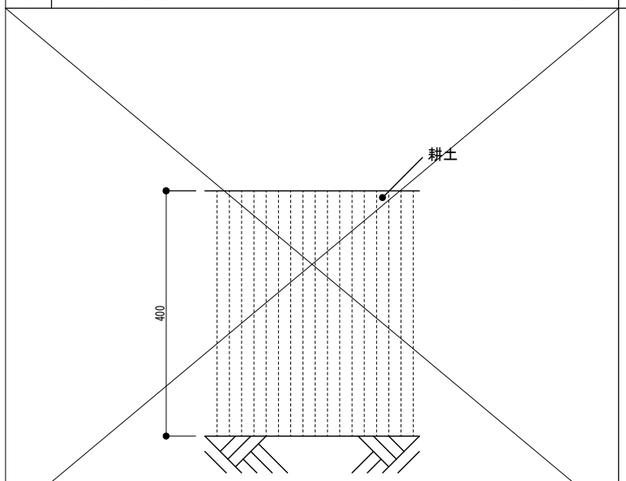


T(mm):150

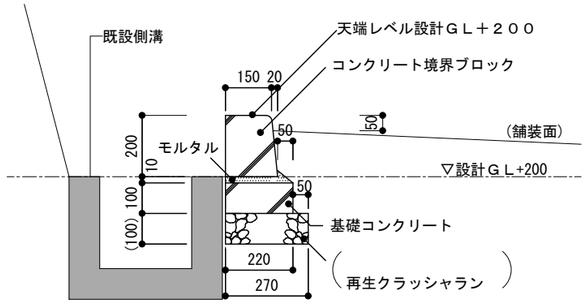
D　山砂盛土ｔ１００　　S＝１：１０



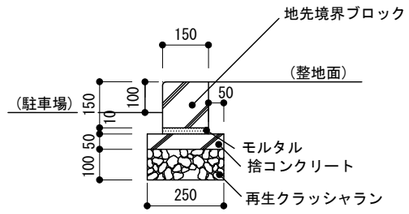
E　耕土盛土ｔ４００　　S＝１：１０



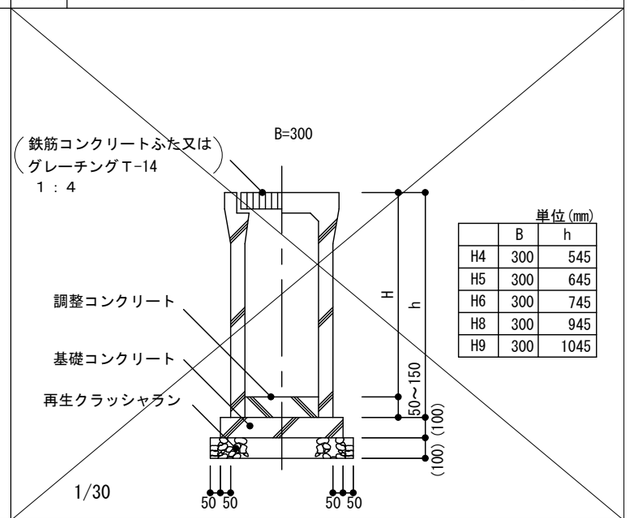
F　歩車道境界ブロックA　　S＝１：２０



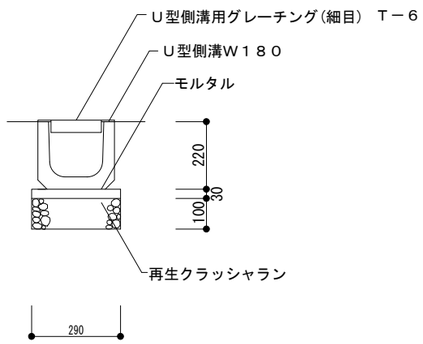
G　地先道境界ブロック　　S＝１：２０



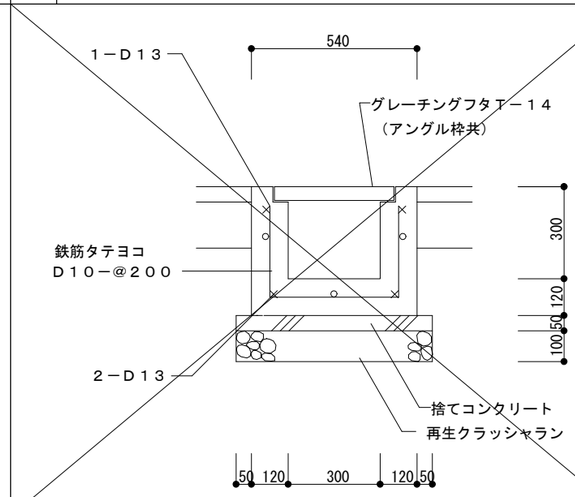
H4～H9　自由勾配側溝　　S＝１：３０



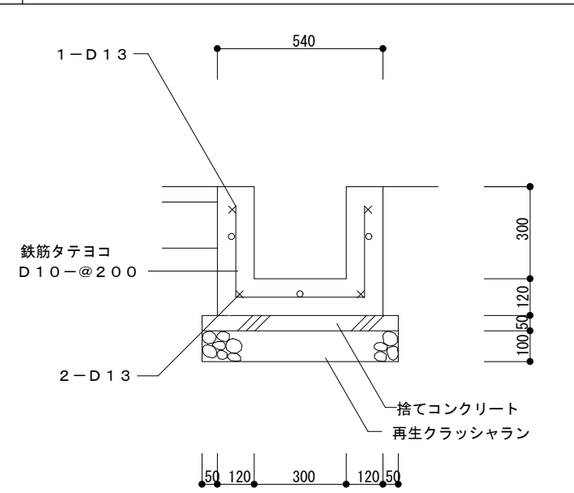
I　U型側溝W１８０　　S＝１：２０



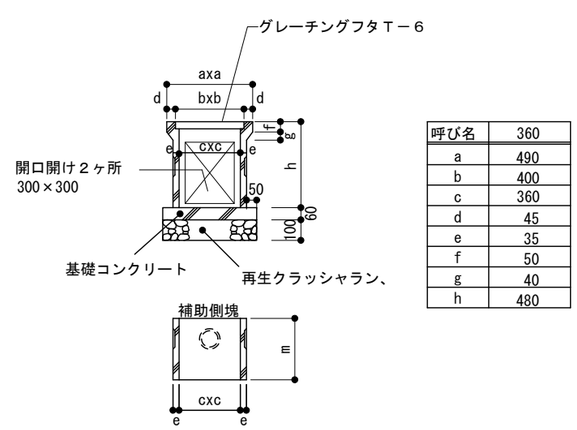
J　現場打ちコンクリート側溝W３００　　S＝１：２０



J2　現場打ちコンクリート側溝W３００　　S＝１：２０



K、K2　既製排水桝W３６０　　S＝１：３０



呼び名	360
a	490
b	400
c	360
d	45
e	35
f	50
g	40
h	480

株式会社 押田建築設計事務所
冨山市丸の内３丁目４番１６　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

管理建築士　一級建築士　登録第179507号　堀田　富士雄

設計担当者　一級建築士　登録第201967号　松原　崇

工事名称　庄川小学校耐震改修事業　２期外構工事

図面名称　外構詳細図１

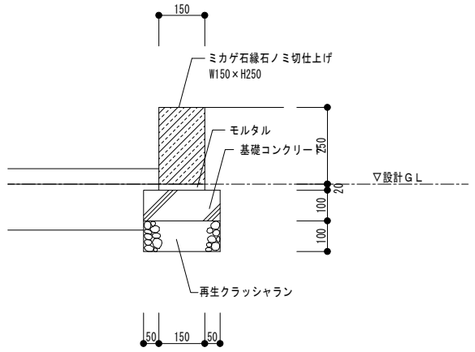
DRAWN　T．M／K．A

DATE　H２７．０９

SCALE　A１：1/5、1/10、1/15　A３：1/10、1/20、1/30

No 2G－13

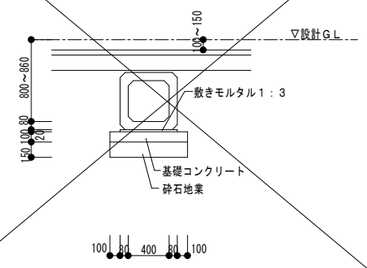
R　ミカゲ石縁石　S＝1：20



S　芝張り

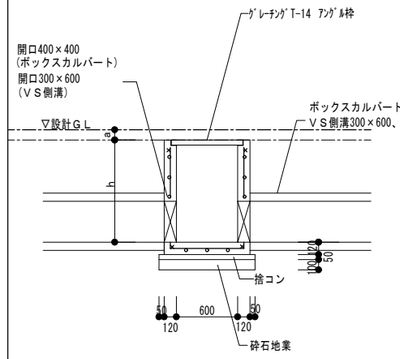
高麗芝張り　（ベタ張り）

T　ボックスカルバート４００×４００　S＝1：60



U3～U8　排水桝６００角　S＝1：60

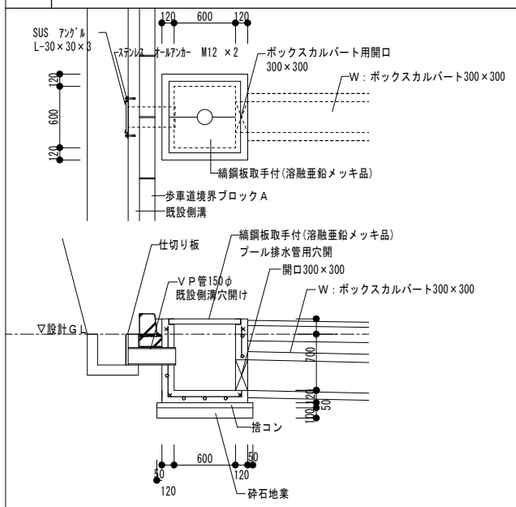
※　U8のみ本工事



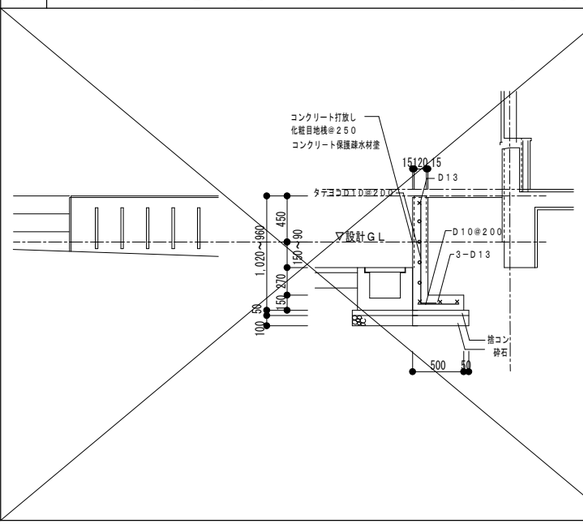
単位(mm)

呼び名	a	h
U3	+30	890
U4	+60	910
U5	+30	815
U6	-50	700
U7	-250	400
U8	+150	700

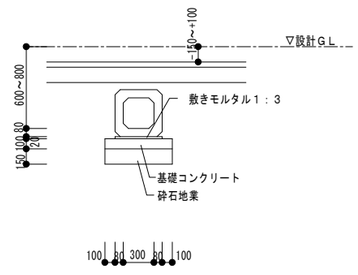
U8　排水桝６００角　S＝1：60



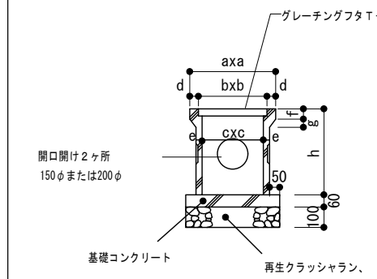
V　立ち上がり花壇Ｈ１１２０～９６０　S＝1：60



W　ボックスカルバート３００×３００　S＝1：60

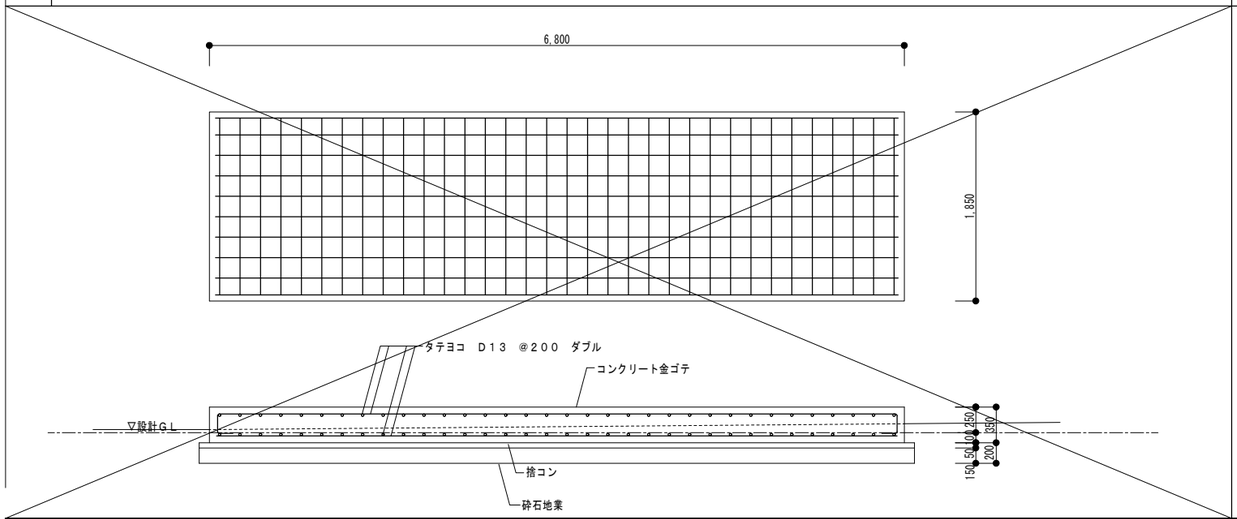


X　既製排水桝Ｗ３００　S＝1：30

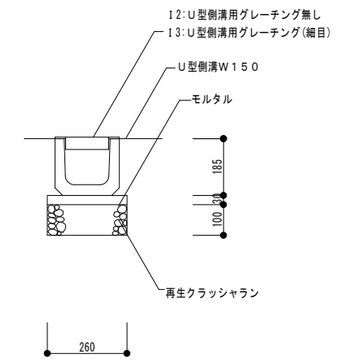


呼び名	300
a	420
b	335
c	300
d	42.5
e	30
f	50
g	40
h	420

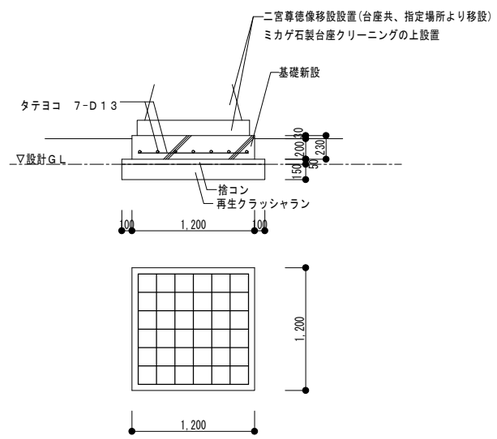
Y　機械設備室外機基礎　S＝1：60



I2、I3　U型側溝Ｗ１５０　S＝1：20



イ　二宮尊徳像移設設置　S＝1：60

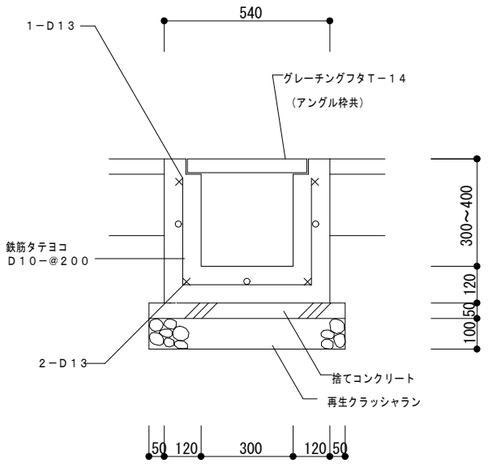


株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内３丁目４番１６　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

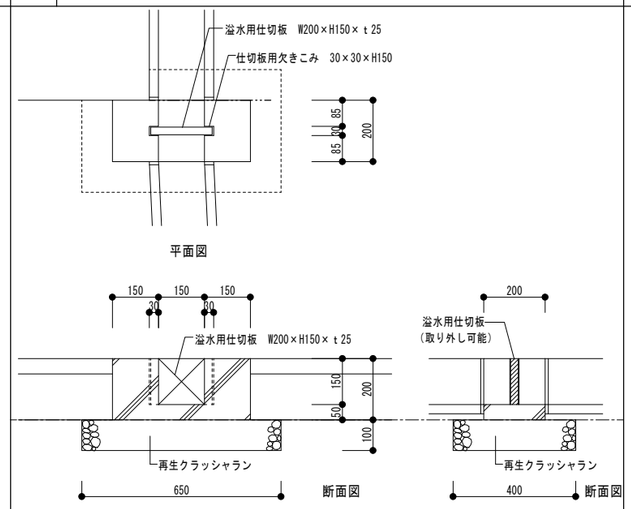
管理建築士	一級建築士	登録第179507号	堀田　富士雄
設計担当者	一級建築士	登録第201967号	松原　崇

工事名称	庄川小学校耐震改修事業　２期外構工事			
図面名称	外構詳細図２			No 2G－14
DRAWN	T. M／K. A	DATE	H27．09	SCALE A1：1/10、1/15、1/30 A3：1/20、1/30、1/60

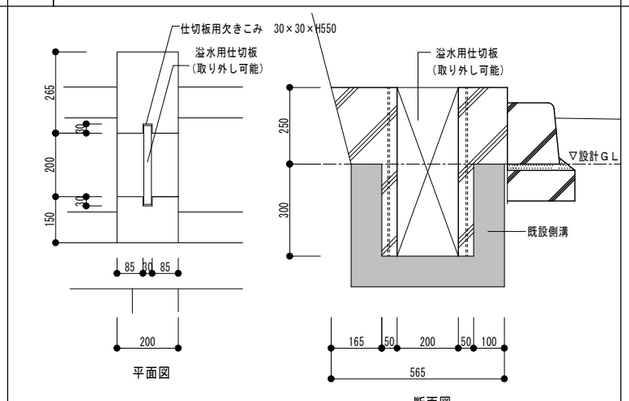
J3　現場打ちコンクリート側溝Ｗ３００　　Ｓ＝１：２０



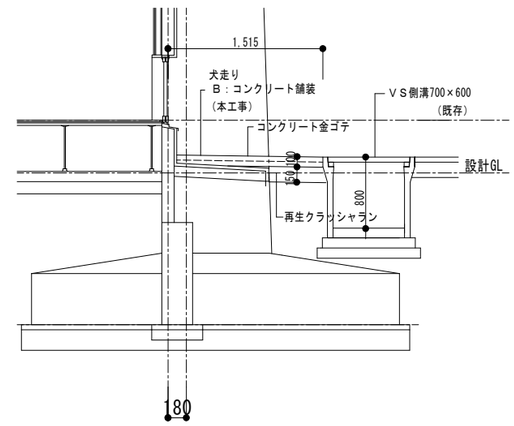
ウ　溢水用仕切板（Ｕ型側溝Ｗ１５０）　　Ｓ＝１：２０



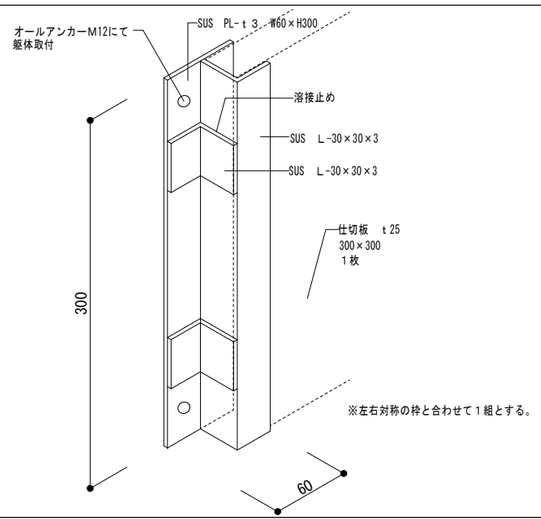
エ　溢水用仕切板（既設側溝Ｗ３００）　　Ｓ＝１：２０



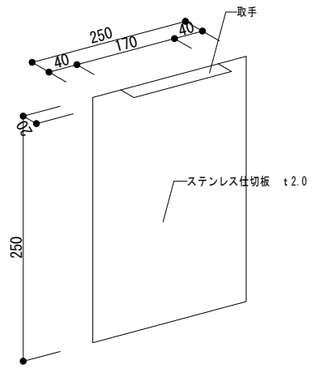
B　コンクリート舗装ｔ100　　Ｓ＝１：６０



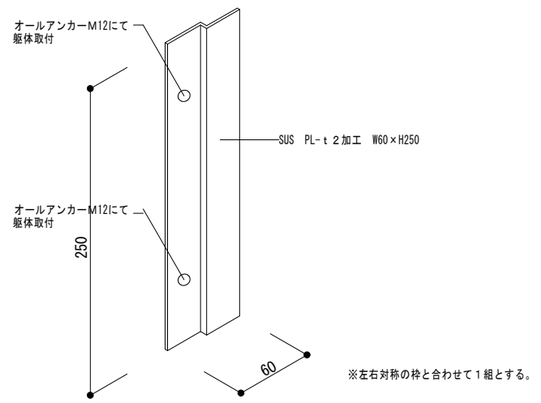
カ　U8　既設側溝取合い仕切板取付枠　　Ｓ＝１：５



キ　K既製桝　導水部ステンレス仕切板　ｔ2.0　　Ｓ＝１：１０



キ　K既製桝　導水部ステンレス仕切板　取付枠　　Ｓ＝１：５



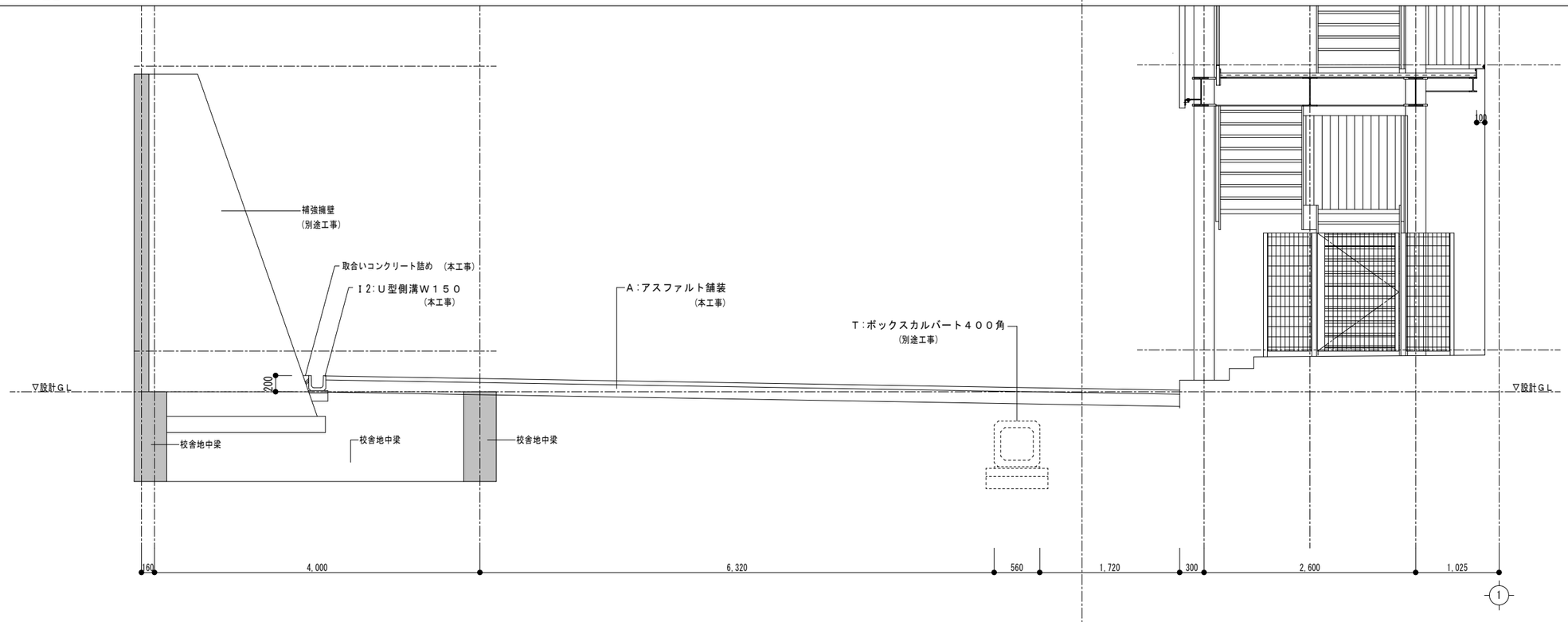
株式会社　押田建築設計事務所
富山市丸の内３丁目４番１６　ＴＥＬ（076)492-1225(代)
ＦＡＸ（076)492-7200

管理建築士	一級建築士	登録第179507号	堀田　富士雄
設計担当者	一級建築士	登録第201967号	松原　崇

工事名称　庄川小学校耐震改修事業　２期外構工事				
図面名称　外構詳細図３				No 2G－15
DRAWN　T．M／K．A	DATE　H27．09	SCALE　A1：1/10、1/30 A3：1/20、1/60		

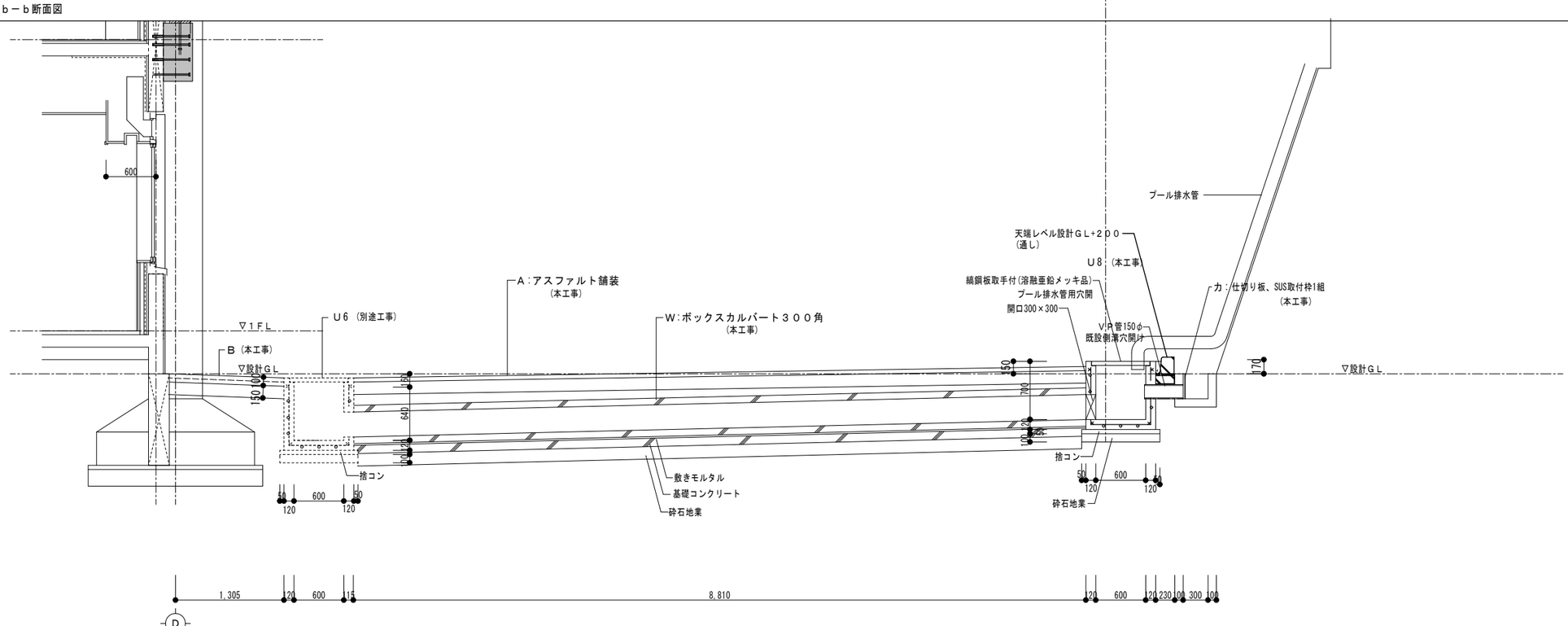
a－a断面図

S＝1：60



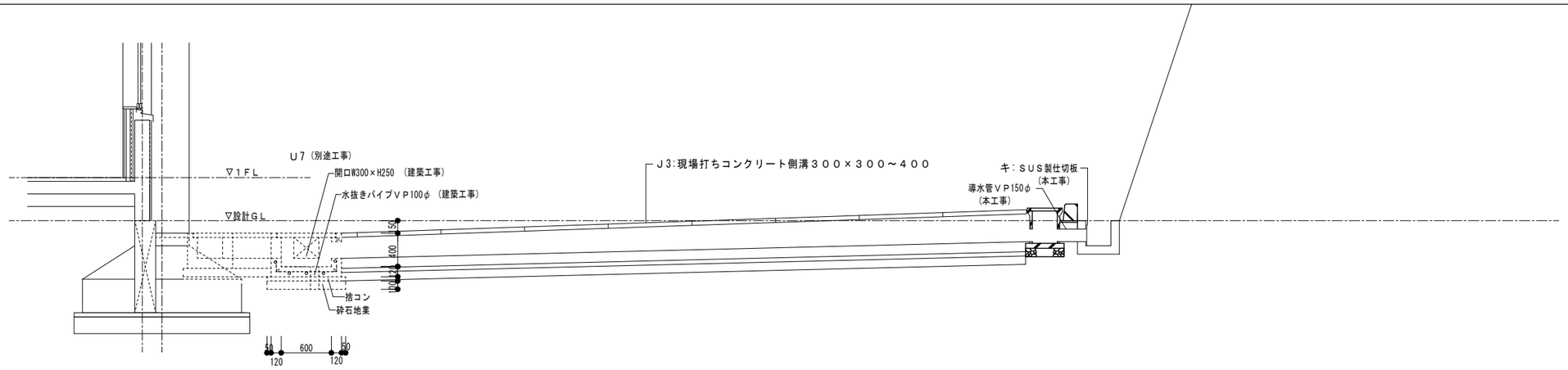
b－b断面図

S＝1：60

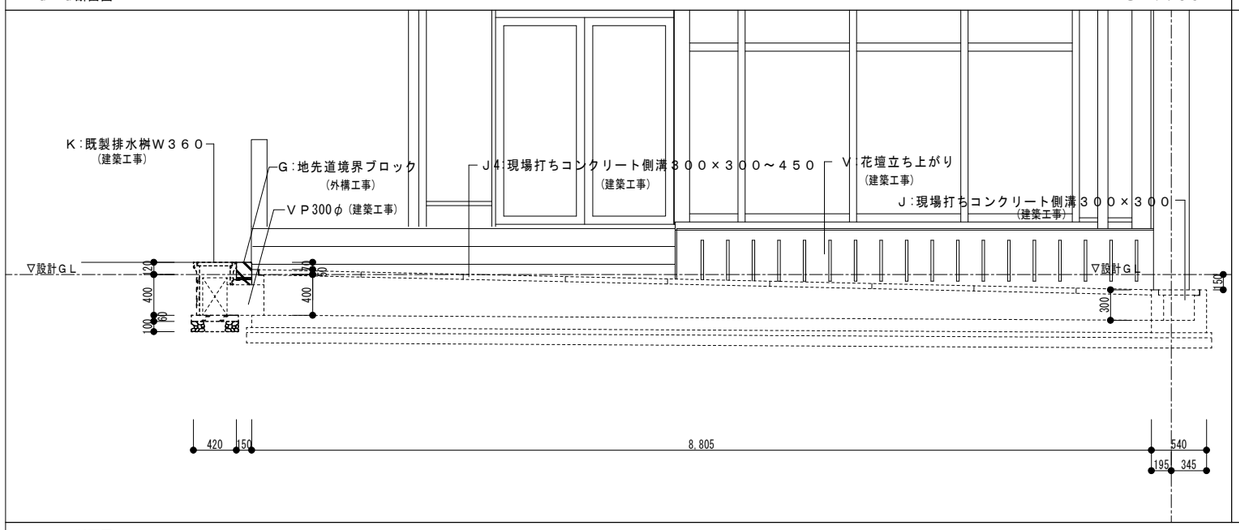


	株式会社 押田建築設計事務所 富山市丸の内3丁目4番16　TEL (076)492-1225(代) FAX (076)492-7200	管理建築士　一級建築士　登録第179507号　堀田　富士雄 設計担当者　一級建築士　登録第201967号　松原　崇	工事名称 庄川小学校耐震改修事業　2期外構工事 図面名称 各所断面図1 DRAWN T．M／K．A　DATE H27．09　SCALE A1：1/30 A3：1/60	No 2G－16

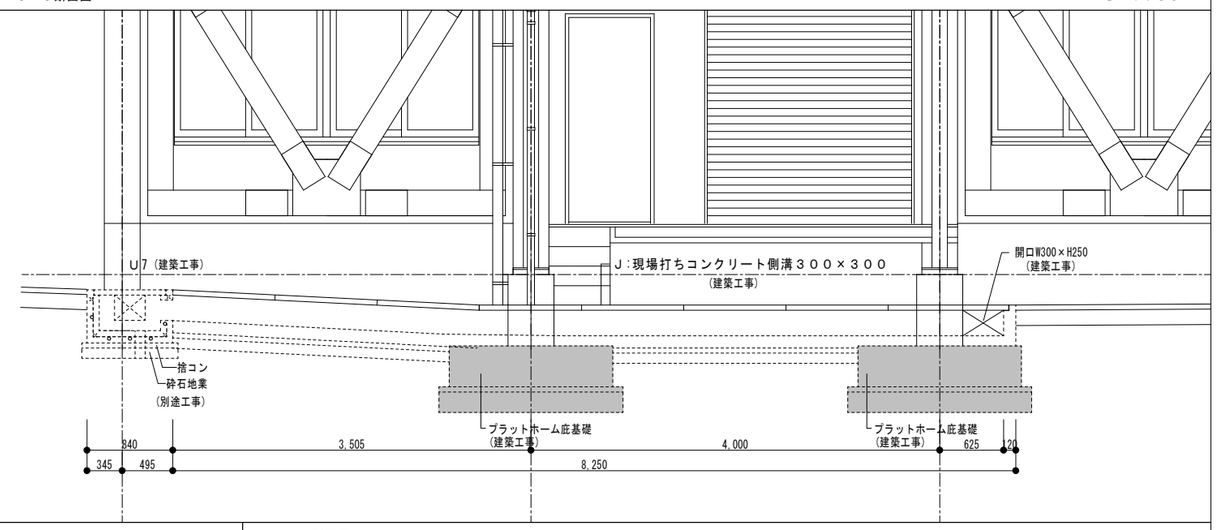
c－c断面図　　S＝1：60



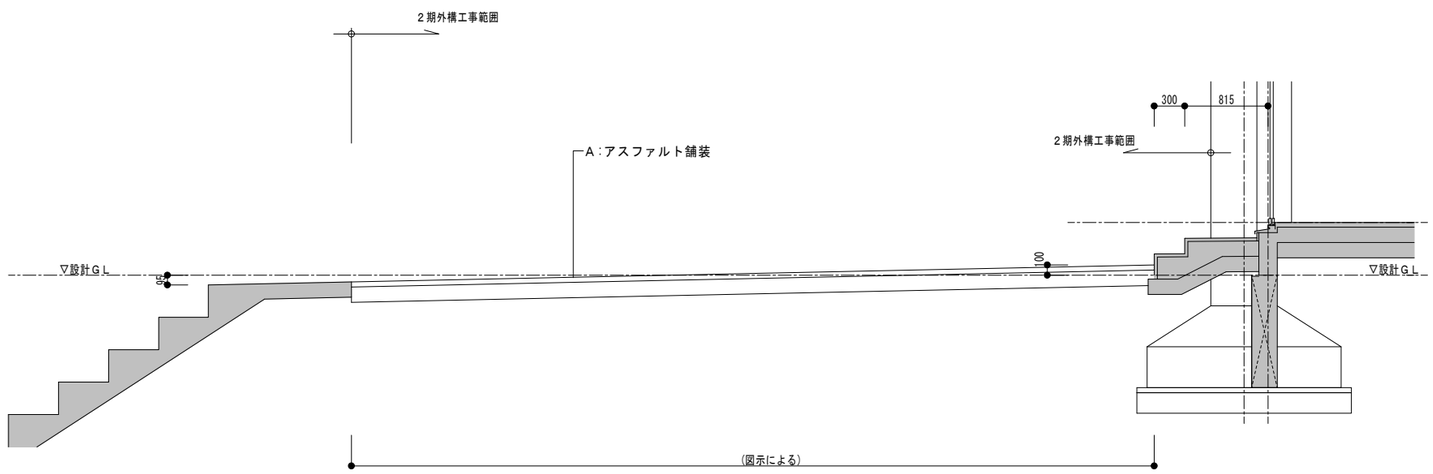
d－d断面図　　S＝1：60



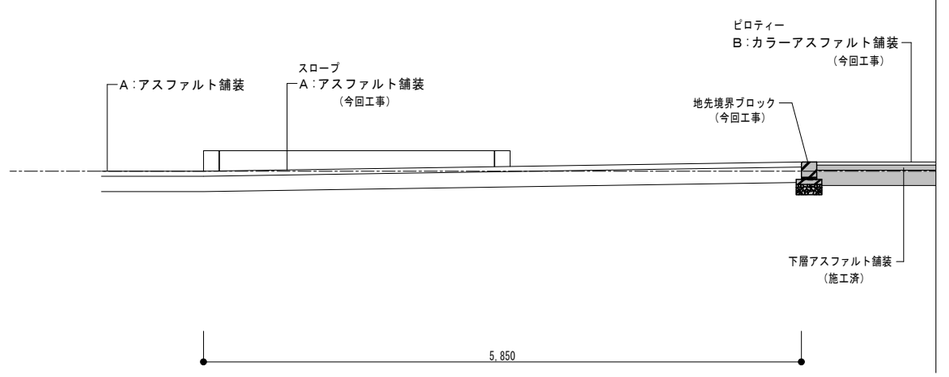
e－e断面図　　S＝1：60



f－f断面図　　S＝1：60



g－g断面図　　S＝1：60



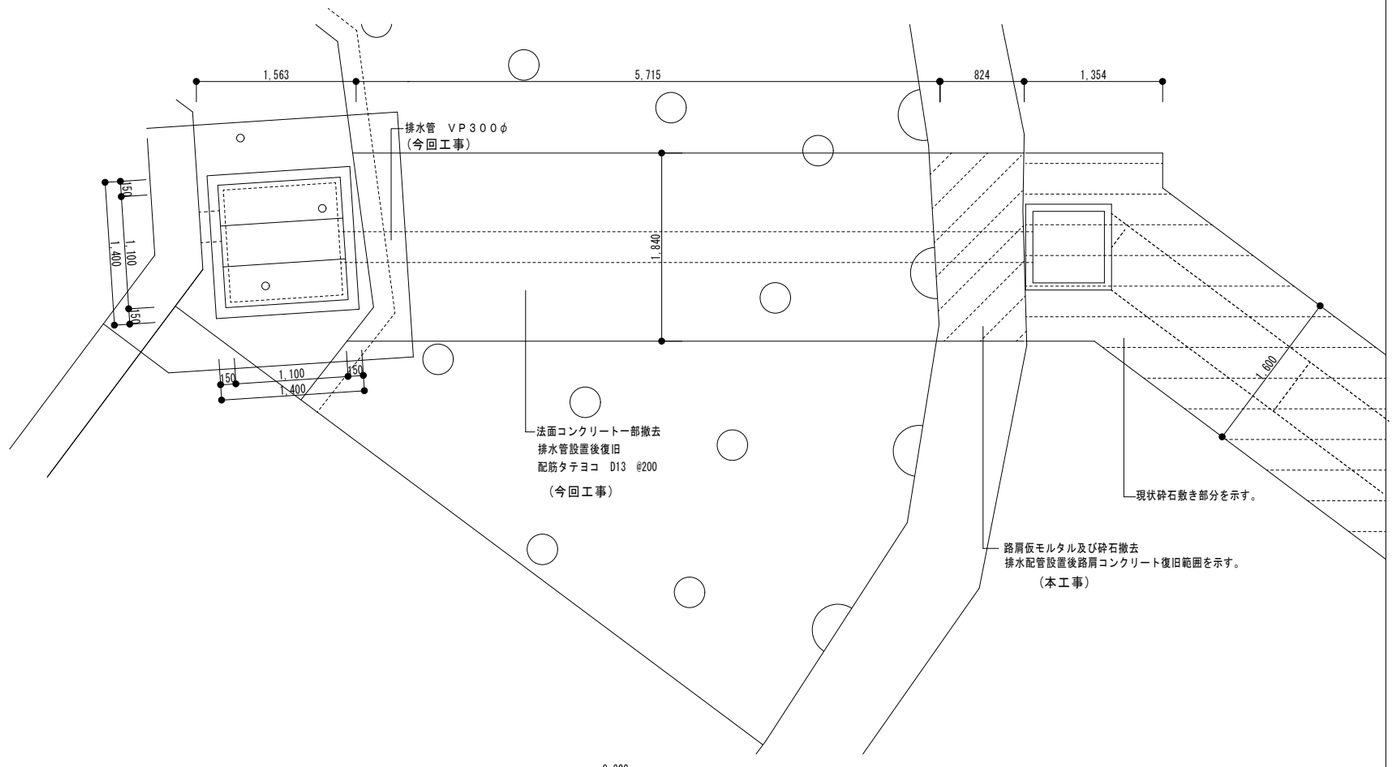
株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内3丁目4番16　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

管理建築士　一級建築士　登録第179507号　堀田　富士雄
設計担当者　一級建築士　登録第201967号　松原　崇

工事名称　庄川小学校耐震改修事業　2期外構工事
図面名称　各所断面図2
DRAWN　T．M／K．A
DATE　H27．09
SCALE　A1：1/30　A3：1/60
No 2G－17

平面図・断面図

S＝1：60



断面図　S＝1：60

株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内3丁目4番16　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

管理建築士　一級建築士　登録第179507号　堀田　富士雄

設計担当者　一級建築士　登録第201967号　松原　崇

工事名称　庄川小学校耐震改修事業　2期外構工事

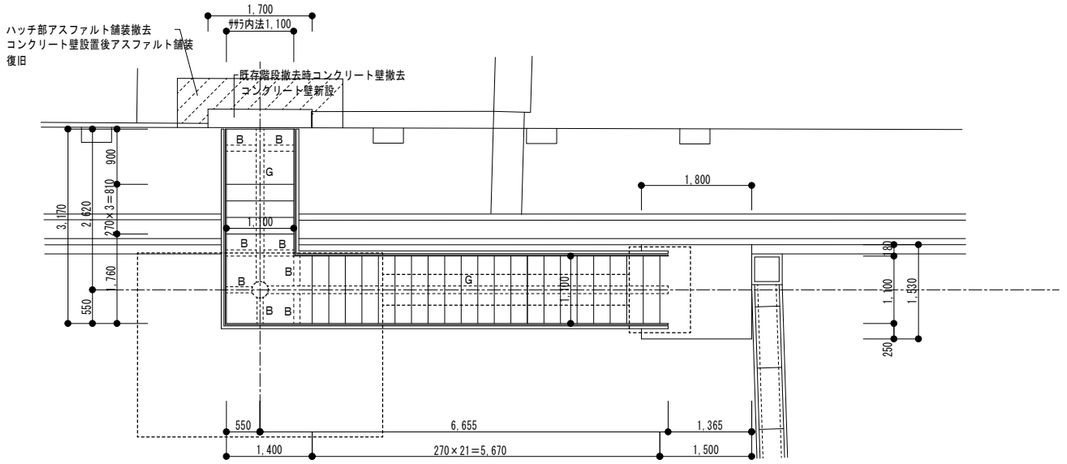
図面名称　グラウンド法面排水管設置平面・断面図

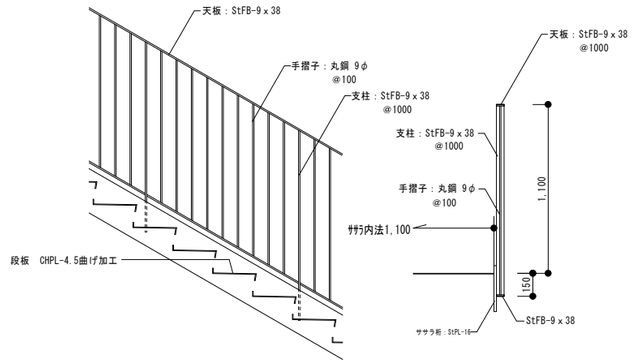
DRAWN　T．M／K．A

DATE　H27．09

SCALE　A1：1/30　A3：1/60

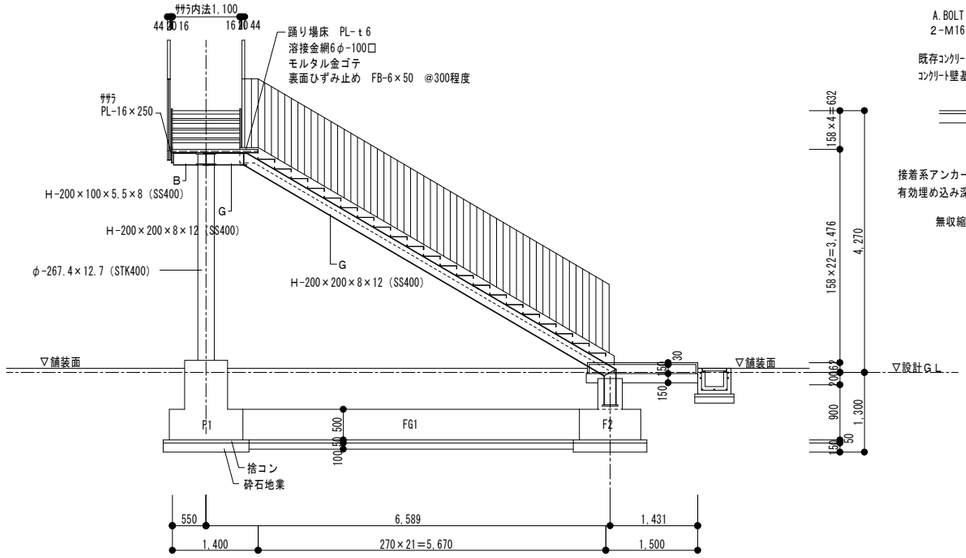
No 2G－18

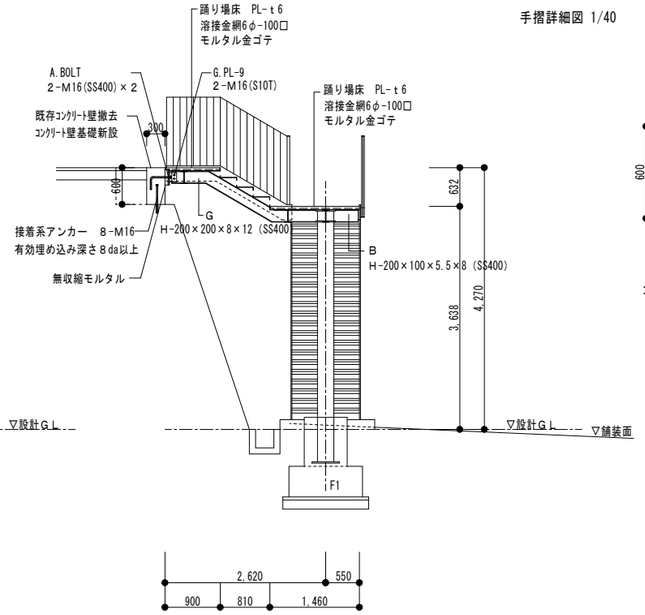


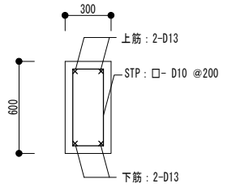


手摺詳細図 1/40

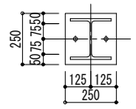
※鉄部は全て溶融亜鉛メッキとする







コンクリート壁基礎詳細図 1/40

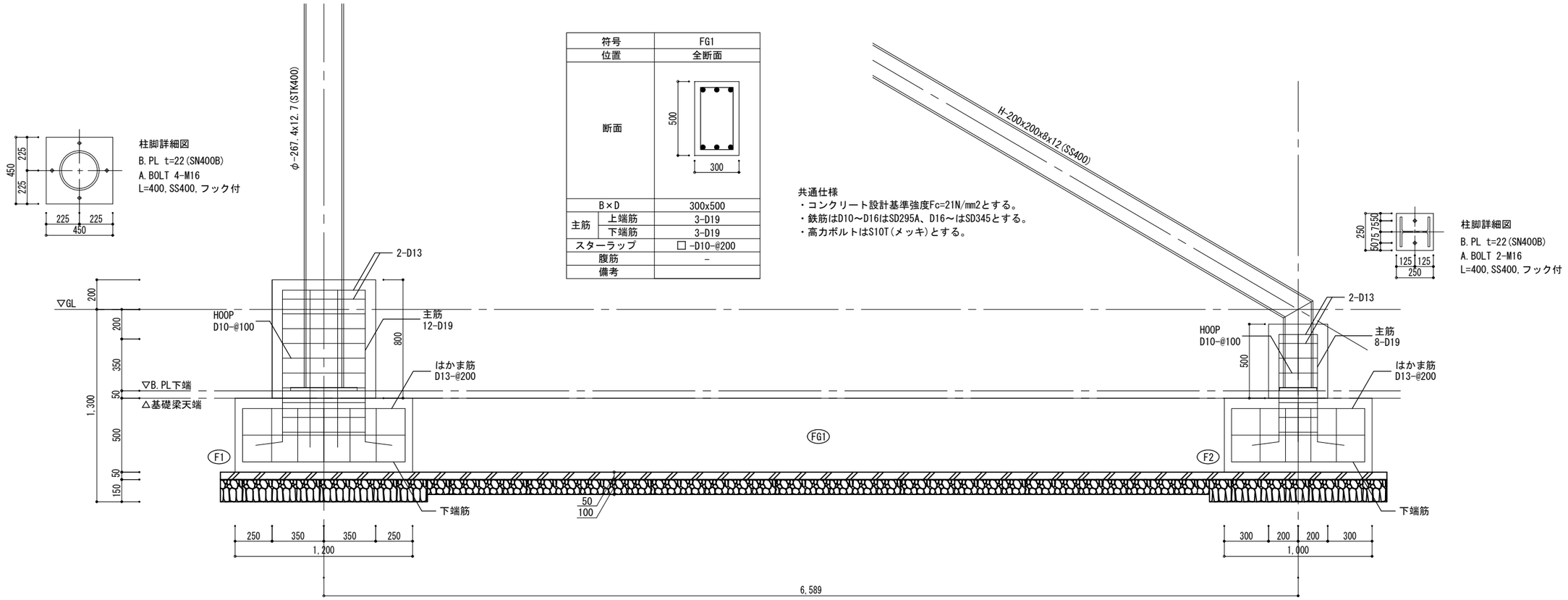


B.PL詳細図 1/30

壁取合いB.PL詳細図
B.PL t=22(SN400B)
A.BOLT 2-M16
L=400, SS400, フック付

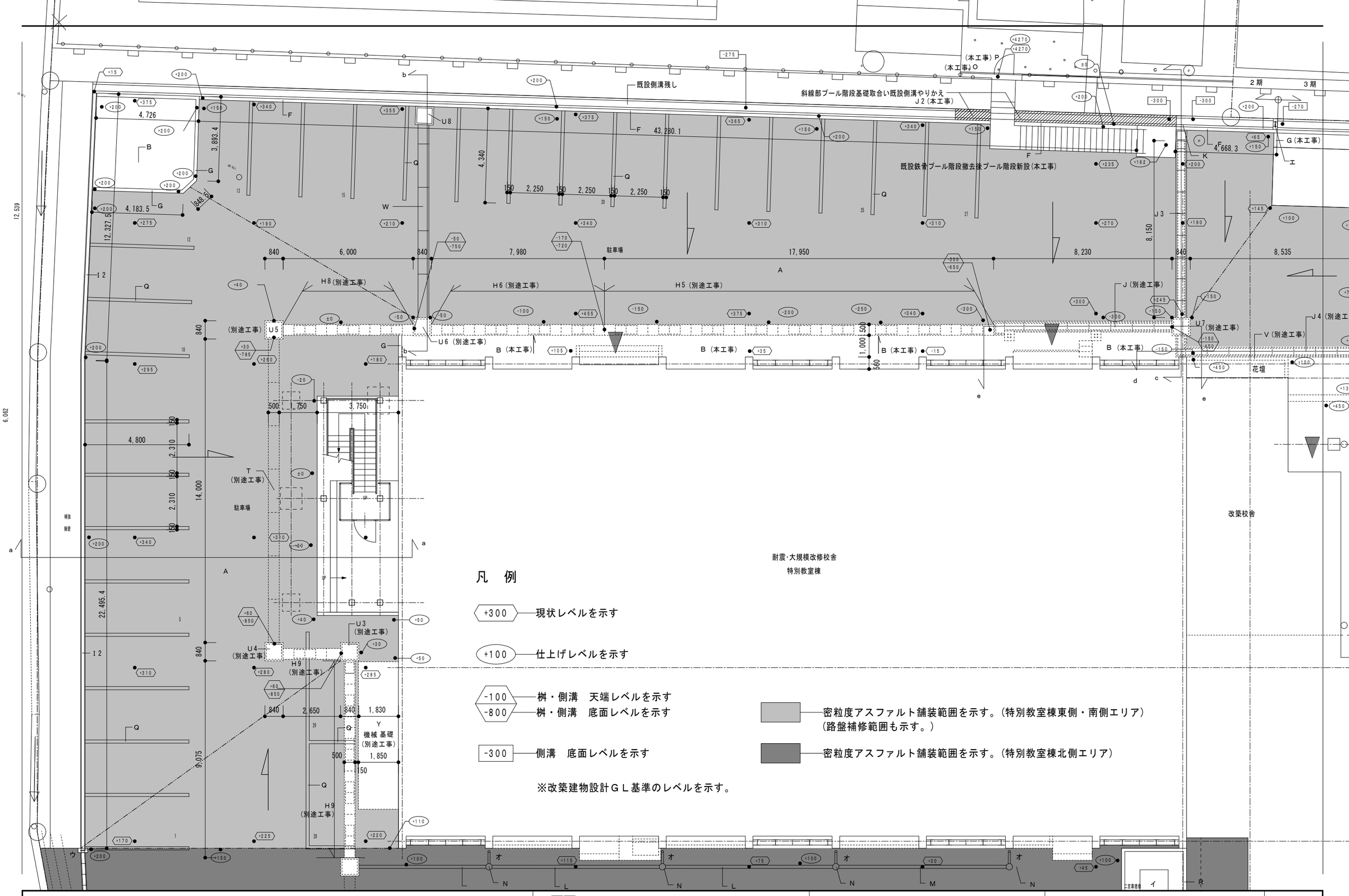
※鉄部は全て溶融亜鉛メッキとする

株式会社 押田建築設計事務所 富山市丸の内3丁目4番16 TEL (076)492-1225(代) FAX (076)492-7200	管理建築士 一級建築士 登録第179507号 堀田 富士雄 設計担当者 一級建築士 登録第201967号 松原 崇	工事名称 庄川小学校耐震改修事業 2期外構工事 図面名称 プール階段詳細図 DRAWN T.M/K.A / DATE H25.03 / SCALE A1:1/400 A3:1/800	No A−19



株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内3丁目4番16 TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200
管理建築士 一級建築士 登録第179507号 堀田 富士雄

管理建築士	堀田 富士雄 一級建築士 第179507号
設計担当者	澤井 謙彰 一級建築士 第357832号
工事名称	庄川小学校耐震改修事業 2期外構工事
図面名称	プール階段基礎詳細図
DRAWN	y.s
DATE	H27.09
SCALE	A1:S=1/15 A3:S=1/30
No	2G-19



凡　例

+300 ―― 現状レベルを示す

+100 ―― 仕上げレベルを示す

-100 ―― 桝・側溝　天端レベルを示す

-800 ―― 桝・側溝　底面レベルを示す

-300 ―― 側溝　底面レベルを示す

※改築建物設計ＧＬ基準のレベルを示す。

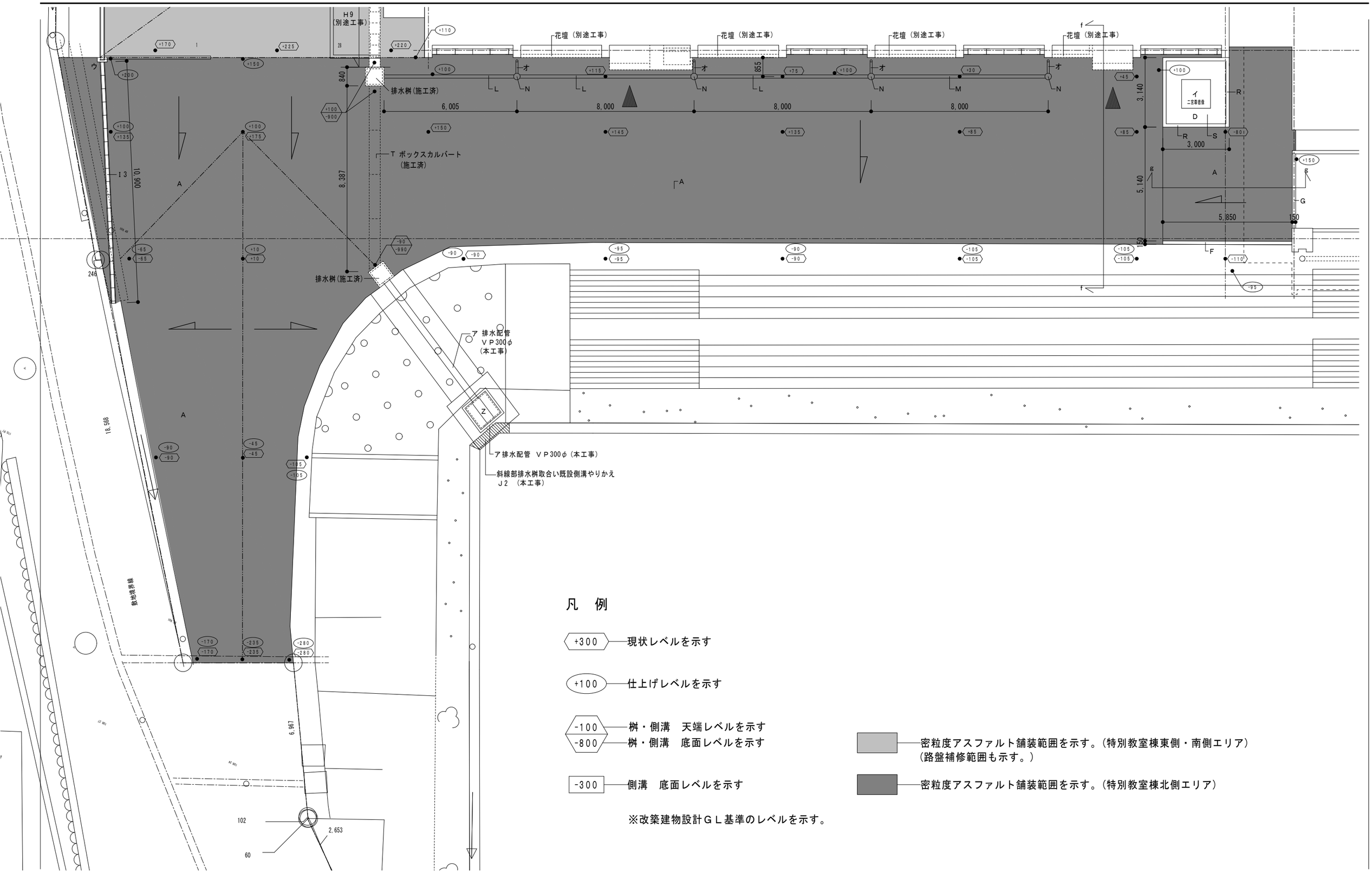
―― 密粒度アスファルト舗装範囲を示す。（特別教室棟東側・南側エリア）
（路盤補修範囲も示す。）

―― 密粒度アスファルト舗装範囲を示す。（特別教室棟北側エリア）

株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内3丁目4番16　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

管理建築士	一級建築士	登録第179507号	堀田　富士雄
設計担当者	一級建築士	登録第201967号	松原　崇

工事名称	庄川小学校耐震改修事業　2期外構工事		
図面名称	特別教室棟廻り拡大外構平面図1		
DRAWN	T. M／K. A	DATE	H27．09
SCALE	A1：1/75 A3：1/150	No	2G－21



凡　例

+300 ―― 現状レベルを示す

+100 ―― 仕上げレベルを示す

-100 ―― 桝・側溝　天端レベルを示す
-800 ―― 桝・側溝　底面レベルを示す

-300 ―― 側溝　底面レベルを示す

密粒度アスファルト舗装範囲を示す。（特別教室棟東側・南側エリア）
（路盤補修範囲も示す。）

密粒度アスファルト舗装範囲を示す。（特別教室棟北側エリア）

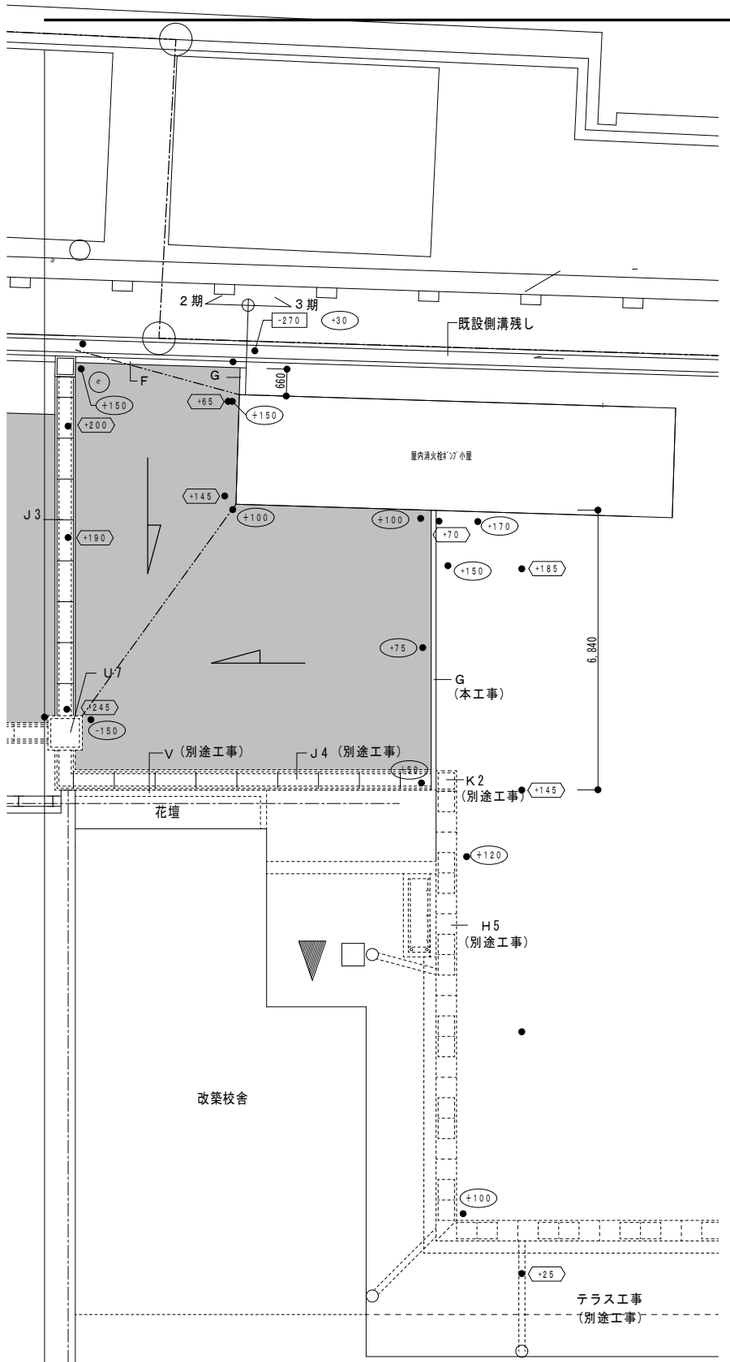
※改築建物設計ＧＬ基準のレベルを示す。

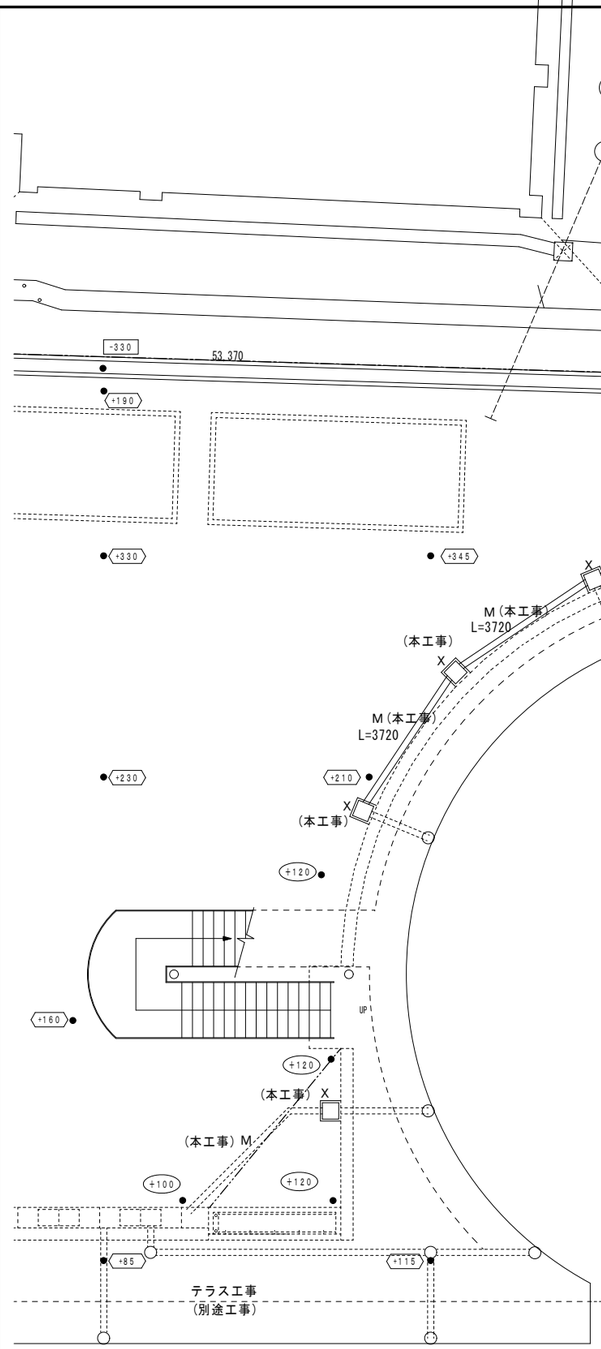
株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内3丁目4番16　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

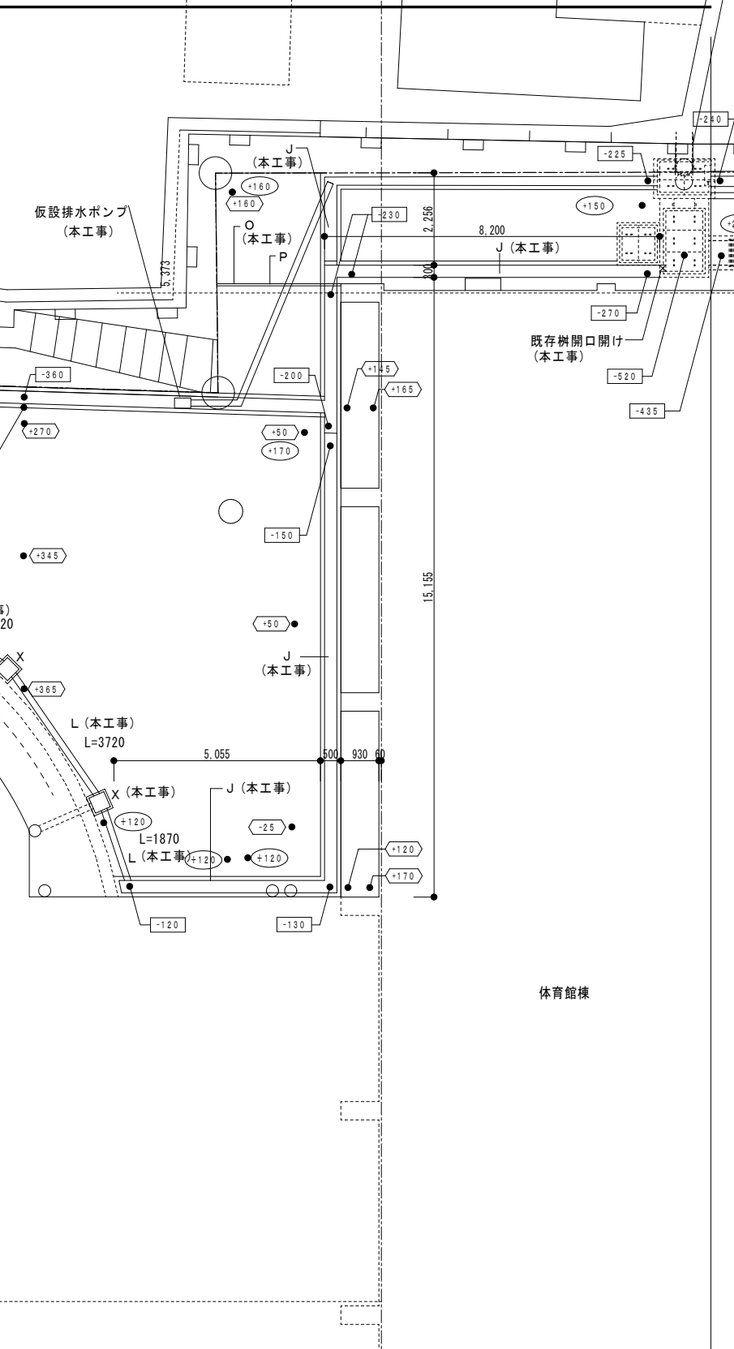
管理建築士	一級建築士	登録第179507号	堀田　富士雄
設計担当者	一級建築士	登録第201967号	松原　崇

工事名称	庄川小学校耐震改修事業　2期外構工事		
図面名称	特別教室棟廻り拡大外構平面図2		
DRAWN	T. M／K. A	DATE	H27．09
SCALE	A1：1/75 A3：1/150		

No 2G－22







凡　例

密粒度アスファルト舗装範囲を示す。(特別教室棟東側・南側エリア)
(路盤補修範囲も示す。)

+300 ——現状レベルを示す

+100 ——仕上げレベルを示す

-100 ——桝・側溝　天端レベルを示す
-800 ——桝・側溝　底面レベルを示す

-300 ——側溝　底面レベルを示す

※改築建物設計ＧＬ基準のレベルを示す。

株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内3丁目4番16　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

管理建築士	一級建築士 登録第179507号 堀田 富士雄	工事名称 庄川小学校耐震改修事業 2期外構工事	
設計担当者	一級建築士 登録第201967号 松原 崇	図面名称 普通教室棟・体育館廻り拡大外構平面図1	No 2G－23
		DRAWN T. M／K. A / DATE H27. 09 / SCALE A1：1/75 A3：1/150	

耐震・大規模改修校舎

体育館棟

普通教室棟

ハッチ部既設コンクリート側溝撤去
（本工事）

犬走りコンクリート補修部分を示す。
（本工事）

犬走りコンクリート補修部分を示す。
（本工事）

犬走りコンクリート補修部分を示す。
（本工事）

駐車場

器具庫屋上

ボックスカルバート
（施工済）

ボックスカルバート600×600

小水力発電

物置

敷地境界線

B（本工事）

M（本工事）

F（本工事）

凡　例

密粒度アスファルト舗装範囲を示す。（体育館棟西・北側エリア）

カラーアスファルト舗装範囲を示す。（ピロティーエリア）

+300　現状レベルを示す

+100　仕上げレベルを示す

-100　桝・側溝　天端レベルを示す

-800　桝・側溝　底面レベルを示す

-300　側溝　底面レベルを示す

※改築建物設計ＧＬ基準のレベルを示す。

株式会社 押田建築設計事務所
冨山市丸の内3丁目4番16　TEL (076)492-1225(代)
FAX (076)492-7200

管理建築士　一級建築士　登録第179507号　堀田　冨士雄

設計担当者　一級建築士　登録第201967号　松原　崇

工事名称　庄川小学校耐震改修事業　2期外構工事

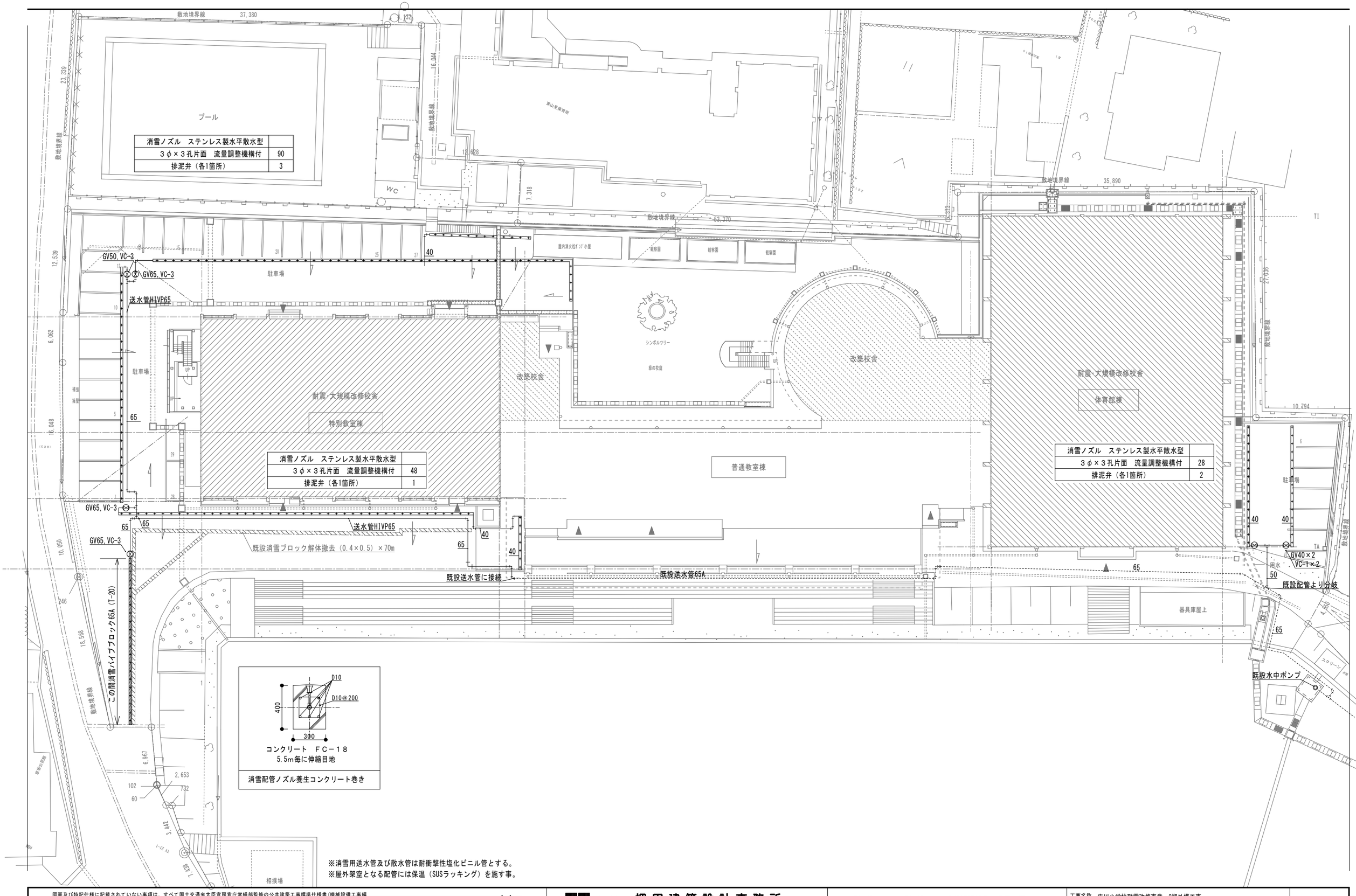
図面名称　普通教室棟・体育館廻り拡大外構平面図2

DRAWN　T.M/K.A

DATE　H27.09

SCALE　A1：1/75　A3：1/150

No 2G－24



※消雪用送水管及び散水管は耐衝撃性塩化ビニル管とする。
※屋外架空となる配管には保温（SUSラッキング）を施す事。

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編（平成25年版））、公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編（平成25年版））及び国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修の公共建築設備工事標準図（機械設備工事編（平成25年版））による。

株式会社 押田建築設計事務所
富山市丸の内3丁目4番16　TEL（076）492-1225（代）
FAX（076）492-7200

管理建築士　一級建築士　登録第179507号　堀田　富士雄
設計担当者　一級建築士　登録第201967号　松原　崇

工事名称　庄川小学校耐震改修事業　2期外構工事
図面名称　外構平面図（消雪設備）
DRAWN　T. Y
DATE　H27. 09
SCALE　A1：1/200　A3：1/400
No P−01